Ⅴ. 教育研究体制

1. 教員組織

(1)専任教員

○薬学部

講座	職位・学位	氏名	主な研究内容
創薬化学			
(薬化学)	教　授 理博	小林　健一	・生物活性天然物の全合成、新規反応の開発、及び医薬品候補化合物の構造活性相関研究
	准教授 薬博	西園　直純	・がん剤と抗ｳｲﾙｽ剤の創製を目指した新規核酸誘導体とｸﾏﾘﾝ誘導体の合成研究
	助　教 薬博	山口　由基	・CYPを阻害する誘導体の合成とCYP阻害ﾒｶﾆｽﾞﾑに関する研究
(医薬化学)	教　授 薬博	西　剛秀	・新規有用生理活性物質の合成研究
	准教授 薬博	山田　康司	・生理活性ｲﾝﾄﾞｰﾙｱﾙｶﾛｲﾄﾞの合成研究
	講　師 薬博	阿部　匠	・有用合成中間体の開発と合成化学への応用に関する研究
(生薬学)	准教授 薬博	高上馬希重	・薬用植物の植物生理学的研究
	講　師 薬博	金　尚永	・ｾﾝﾘｮｳ科Chloranthus属植物の成分研究
	助　教	野口由香里	・荒れた森の復活研究「北海道医療大学・北方系生態観察園の里山化」
分子生命科学			
(生化学)	教　授 薬博	青木　隆	・UGT1A遺伝子ﾌﾟﾛﾓｰﾀｰ領域の機能解析と遺伝子多型に関する研究
	准教授 薬博	浜上　尚也	・神経活性物質の変動とその意義に関する研究
	講　師 薬博	土田　史郎	・均一蛍光濃縮法（HAFCOM）を用いたﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞの基質特異性解析
(免疫微生物学)	教　授 獣医博	岡崎　克則	・ｳｲﾙｽ感染症の診断および治療法の開発研究
	准教授 医博	大澤　宜明	・ｳｲﾙｽの感染成立及び病原性の機構に関する研究
	助　教 薬博	森　宏	・ﾃﾞﾙﾀﾚﾄﾛｳｲﾙｽによる白血病発症機構の解明
生命物理科学			
(薬品分析化学)	教　授 薬博	村井　毅	・胆汁酸生合成機構及び胆汁酸ﾄﾗﾝｽﾎﾟｰﾀｰの機能解析に関する研究
	准教授 理博	佐藤　浩輔	・合理的設計に基づく新規機能性核酸分子の創製研究
	助　教 環境科学博	佐々木隆浩	・精密位置制御分子修飾に基づく機能性ﾅﾉ材料の開発
(薬品物理化学)	教　授 薬博	吉村　昭毅	・ﾀﾝﾊﾟｸ質および核酸の超高感度ｼﾞｸﾞﾅﾙ検出試薬の開発
	助　教 理修	岡田　知晃	・X線結晶構造解析法を用いた生体高分子の構造研究
(放射薬品化学)	准教授 薬博	北浦　廣剛	・放射性ﾌﾟﾛｰﾌﾞを用いたがんの診断・治療薬剤の開発
	助　教 薬博	大島　伸宏	・創薬化学を基盤とした核医学診断・治療薬剤の開発研究
衛生薬学			
(衛生化学)	准教授 薬博	小林　大祐	・薬物および食品の作用や毒性の個体差要因の解析
	助　教 生命薬科学修	石川　美香	・薬物および食品成分の代謝研究
(環境衛生学)	教　授 医博	小島　弘幸	・環境化学物質による核内受容体を介した生体影響評価に関する研究
	准教授 水産科学博	寺崎　将	・食品及び薬用植物由来機能性脂質によるがん化学予防に関する研究
	助　教 臨床薬学博	窪田　篤人	・環境因子による炎症性腸疾患の予防制御機構の解明
薬理学			
(薬理学)	教　授 薬博	柳川　芳毅	・生理活性物質による免疫細胞の機能修飾
	講　師 薬博	水野　夏実	・抗原提示細胞による免疫機構調節に関する研究
	助　教 薬博	遠藤　朋子	・免疫細胞における新規細胞内情報伝達機構に関する研究
(臨床薬理毒理学)	教　授 医博	泉　剛	・情動の行動薬理学的・神経化学的研究
	准教授 獣医博	大橋　敦子	・病態ﾓﾃﾞﾙ動物における神経伝達調節に関する研究
	講　師 医博	鹿内　浩樹	・精神疾患ﾓﾃﾞﾙ動物の示す行動変容の神経基盤解析
(病態生理学)	教　授 医博	飯塚　健治	・擬似的圧力負荷環境下における細胞応答に関する研究
	准教授 薬博	町田　拓自	・血管及び消化管傷害による機能変化とその制御に関する研究
	助　教 薬博	平出　幸子	・脳機能発達と情動神経回路形成ﾒｶﾆｽﾞﾑに関する研究
薬剤学			
(薬剤学)	教　授 薬博	齊藤　浩司	・医薬品の体内動態の解明とその制御に関する研究
	准教授 薬博	小田　雅子	・多剤排出ﾀﾝﾊﾟｸによる薬物輸送および薬物相互作用に関する研究
	助　教 薬博	市村　祐一	・薬物の体内動態に対する尿毒症物質の影響に関する研究
(製剤学)	教　授 医博	柴山　良彦	・がん化学療法とﾏｲｸﾛRNAに関する臨床薬剤学研究
	准教授 薬博	中川　勉	・糖代謝・脂質合成制御の分子メカニズムに関する研究
	講　師 薬博	久保　儀忠	・固体分散系を応用したﾊﾞｲｵｱﾍﾞｲﾗﾋﾞﾘﾃｨ改善の製剤学的研究
(臨床薬剤学)	教　授 薬博	小林　道也	・簡易懸濁法による薬剤の溶解性と溶出挙動の変化
	准教授 薬博	伊藤　邦彦	・高分子ｹﾞﾙを利用した製剤設計
	助　教 薬博	下山　哲哉	・温度およびｲｵﾝ応答性高分子混合系を用いた経口徐放性液剤の設計
実務薬学			
(実務薬学教育研究)	教　授 薬博	平野　剛	・妊娠の進行に伴う胎盤の栄養輸送に関する研究
	准教授 薬博	吉田　栄一	・調剤薬局におけるﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄに関する研究
	講　師 薬博	中山　章	・学校薬剤師と地域薬事衛生に関する研究
	講　師 薬博	櫻田　渉	・薬局における薬剤師の業務内容の研究
	講　師	高村　茂生	・妊娠期の薬物服用が胎児に及ぼす影響に関する研究
	講　師 薬博	早坂　敏明	・頭髪中の安定同位体比を用いた栄養評価に関する研究
(病院薬学)	教　授 薬博	遠藤　泰	・薬剤師業務、ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄならびに副作用に関する薬学的研究
	講　師 薬博	岩尾　一生	・健康食品による薬物動態への影響に関する研究
	講　師 薬博	木村　治	・薬毒物の体内動態に関する研究
	講　師 薬修	千葉　智子	・医療安全管理と医薬品の適正使用に関する研究
	助　教 薬修	藤崎　博子	・お薬手帳の普及とその活用に関する研究
	助　教 薬修	及川　孝司	・入院患者薬物治療への薬剤師による介入とその評価
薬学教育推進			
(薬学教育支援室)	教　授 薬博	中川　宏治	・がん細胞の低酸素適応応答に関する分子生物学的研究
	教　授 薬博	木村　真一	・ﾗｯﾄ脳神経細胞の機能に関する研究
	教　授 薬博	井関　健	・
	教　授 歯博	笠師久美子	・医療系学部におけるスポーツ医療教育の探索と検証
薬用植物園・北方系生態観察園	准教授 薬博	堀田　清	・荒れた森の復活研究「北海道医療大学・北方系生態観察園の里山化」
人間基礎科学	教　授 理博	鈴木　一郎	・新規不斉有機分子触媒の開発と有機合成への応用
	教　授 工博	二瓶　裕之	・人工的な光学結晶を用いた光情報通信の理論的研究
	教　授 TESOL修	足利　俊彦	・語用論、特に中間言語語用論に基づく異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの研究
	教　授 理博	長谷川敦司	・光散乱を利用した様々な微粒子の物性測定手法の開発
			・光の干渉縞を利用した低速流体の流速計測
	准教授 理博	近藤　朋子	・免疫細胞における新規細胞内情報伝達機構に関する研究
	准教授 薬博	新岡　丈治	・イメージング技術を用いた、血流動態と調節機序に関する研究
	准教授 工博	堀内　正隆	・βGRPとｶｰﾄﾞﾗﾝによる簡便で低ｺｽﾄな組換えﾀﾝﾊﾟｸ質固定化法の研究
	講　師 法博	姫嶋　瑞穂	・日本における優生関連法の歴史的存立基盤に関する実証的研究
	講　師 理博	原田　潤平	・接続に依存しない定式化による一般相対論およびその拡張理論の研究

○歯学部

講座	職位・学位	氏名	主な研究内容
口腔機能修復・再建学系			
（歯周歯内治療学）	教　授 歯博	古市　保志	・歯周組織再生に関する研究
			・歯周病と全身的な疾患との関連性に関する研究
	講　師 歯博	加藤　幸紀	・歯周病関連細菌感染ﾏｸﾛﾌｧｰｼﾞにおけるｱﾎﾟﾄｰｼｽ誘導に関する研究
	助　教 歯博	清水伸太郎	・日本人歯周炎患者のｹﾞﾉﾑﾜｲﾄﾞ関連解析
	助　教 歯博	松本　光生	・
	助　教 歯博	蔀　佳奈子	・金属ナノ粒子を用いた抗菌的光線力学療法に関する研究
※	助　手	藤田　桃子	・
（う蝕制御治療学）	教　授 歯博	斎藤　隆史	・象牙質再石灰化・再生技術を応用した新規齲蝕治療法の開発
	講　師 歯博	泉川　昌宣	・ﾎﾀﾃ貝殻の歯科材料への応用に関する研究
	講　師 歯博	松田　康裕	・歯の脱灰、再石灰化に関する研究
			・う蝕の個体差に関する研究
	助　教 歯博	永井　康彦	・歯根面う蝕に関する研究
	助　教 歯博	油井　知雄	・破骨細胞分化機構の解析
※	助　手	猪熊　孝憲	・
※	助　手	諏訪　涼子	・
※	助　手	谷口　未季	・
（高度先進保存学）	教　授 歯博	川上　智史	・Er:YAGﾚｰｻﾞｰの歯科臨床応用に関する研究
	講　師 歯博	森　　真理	・早産と歯周病に関する研究
	助　教 歯博	尾立　達治	・消毒剤の歯科用金属製器材に対する腐食性
	助　教	小西ゆみ子	・歯周病と高感度CRPとの関連について
※	助　手	佐藤　幸平	・ユニバーサルボンディング材の初期・長期耐久性に関する研究
※	助　手	田端晋太郎	・
※	助　手	山本　直弥	・
※	助　手	若森　一誠	・
（咬合再建補綴学）	教　授 歯博	越野　　寿	・加齢に伴う顎口腔系機能の変化とその機能回復法に関する研究
	准教授 歯博	豊下　祥史	・咀嚼機能が糖代謝に及ぼす影響に関する研究
	助　教 歯博	佐々木みづほ	・ｵｰﾗﾙﾃﾞｨｱﾄﾞｺｷﾈｼｽを利用した簡便に行えるｻﾙｺﾍﾟﾆｱ進行度評価法の開発
	助　教 歯博	菅　　悠希	・ﾏｳｽにおける飼料性状の変更による咀嚼動態の相違が糖代謝系に与える影響
	助　教 歯博	竹田　洋輔	・咀嚼機能の変化が認知機能に与える影響
※	助　手	木村　　聡	・人工歯の耐摩耗性に関する臨床研究
※	助　手	佐藤　夏彩	・人工歯の耐摩耗性に関する臨床研究
（ｸﾗｳﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ・ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ補綴学）	教　授 歯博	越智　守生	・生体電気刺激の口腔ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄへの臨床応用
	准教授 歯博	広瀬由紀人	・ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ周囲組織を再生するﾃｨｯｼｭｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ
	講　師 歯博	仲西　康裕	・低出力ﾊﾟﾙｽ超音波刺激によるｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ周囲骨形成の促進
	助　教 歯博	木村　和代	・ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ患者の統計分析
	助　教 歯博	山口　摂崇	・高齢就労者における職業性ｽﾄﾚｽが口腔機能に与える影響に関する研究
※	助　手	山田　哲郎	・
※	助　手	三上　　進	・
（高度先進補綴学）	教　授 歯博	舞田　健夫	・口腔ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄに関する臨床的研究
	講　師 歯博	田村　　誠	・HAｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ薄膜の構造と溶解性について
	助　教 歯博	神成　克映	・ﾁﾀﾝと陶材の溶着強さに関する研究およびﾁﾀﾝ製溶着鋳造冠の臨床応用について
※	助　手	兼子　敬史	・
※	助　手	熊谷　　渉	・
※	助　手	内山　明生	・
※	助　手	赤塚　知一	・
（デジタル歯科医学）	教　授 歯博	疋田　一洋	・歯科用CAD/CAMｼｽﾃﾑの臨床応用
※	助　手	伊藤亜希子	・
（生体材料工学）	教　授 歯博/工博	遠藤　一彦	・化学修飾法を用いたｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ表面の機能化
			・金属系ﾊﾞｲｵﾏﾃﾘｱﾙの生体内腐食機構の解明と高耐食性合金の開発
	准教授 理博	根津　尚史	・歯科生体材料表面のコロイドスケールでの機能化に関する研究
			・熱力学的安定性に基づくミクロ～ナノ均質複合材料の創生
	助　教 歯博	建部　二三	・ﾁﾀﾝ表面改質による抗菌性ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ材料の研究
生体機能・病態学系			
（組織再建口腔外科学）	教　授 歯博	志茂　　剛	・顎骨破壊病変制御と顎骨再生
	教　授 歯博	奥村　一彦	・自然免疫分子ｶｾﾘｼﾞﾝの腫瘍抑制効果に対するmiRNA制御機構の解明
			・RNA編集酵素を標的とした癌幹細胞の自己複製制御による新しい口腔癌治療の開発
	助　教	武田　成浩	・顎変形症の診断と治療に関する研究（特に下顎非対称解析法の確立に関する研究）
	助　教 歯博	淀川慎太郎	・形態形成遺伝子HOXが癌転移におよぼす影響
	助　教 歯博	平木　大地	・歯周病原菌の膵臓への影響に関する研究
※	助　手 歯博	横関　健治	・穿孔超音波脱灰骨における構造の重要性と異所性骨誘導
（顎顔面口腔外科学）	教　授 歯博	永易　裕樹	・ﾋﾄ口腔癌細胞の浸潤、転移能の促進因子に関する研究
	助　教 歯博	佐々木智也	・体液浸透性ﾊﾞｲｵﾐﾒﾃｨｯｸｾﾗﾐｯｸｽの開発と骨再生
	助　教 歯博	石川　昌洋	・口腔ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄの3次元有限要素解析の研究
	助　教 歯博	南田　康人	・傾斜機能構造を有した生体活性型ｾﾗﾐｯｸｽの開発
	助　教 歯博	原田　文也	・歯周病原菌細菌由来LPSの全身投与ﾏｳｽにおける腎臓での遺伝子発現変化とｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽ修飾の解析
※	助　手	若林茉梨絵	・
※	助　手	関　　姫乃	・顎義歯補綴における印象採得のデジタル化の検討
（口腔再生医学）	教　授 歯博	村田　　勝	・超音波脱灰骨／象牙質の骨誘導活性と構造特性の評価

講座	職位・学位	氏名	主な研究内容
（歯科麻酔科学）	教　授 歯博	照光　　真	・三叉神経神経障害性疼痛の機構解明
	講　師 歯博	吉本　裕代	・慢性疼痛の中枢神経ﾒｶﾆｽﾞﾑに関する研究
	助　教	大桶　華子	・ｶｵｽ･ﾌﾗｸﾀﾙ解析を用いた歯科治療時に患者が感じる不快感の定量評価に関する研究
	助　教 歯博	岩本　理恵	・
（歯科放射線学）	教　授 歯博	中山　英二	・顎顔面口腔領域疾患の画像所見解析とInterventional Radiologyに関する研究
	講　師 歯博	佐野　友昭	・X線照射造影剤からのﾌﾘｰﾗｼﾞｶﾙ発生と抗HBs抗体の放射線防護能に関する研究
	助　教	杉浦　一考	・口腔癌に対するInterventional Radiologyの応用に関する研究
※	助　手	田代　真康	・ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞﾌﾟﾚｰﾄにおける光減衰が診断能に及ぼす影響に関する研究
（高齢者・有病者歯科学）	教　授 歯博	會田　英紀	・光機能化ﾊﾞｲｵﾏﾃﾘｱﾙに関するﾄﾗﾝｽﾚｰｼｮﾅﾙﾘｻｰﾁ
	講　師 歯博	塚越　　慎	・ﾏｲｸﾛｽｺｰﾌﾟの歯内治療への応用
	助　教	尾立　　光	・歯科訪問診療が施設高齢者の口腔衛生状態に及ぼす影響に関する研究
※	助　手	三重野花菜	・当院における歯科訪問診療患者の欠損病態についての実態調査
（臨床口腔病理学）	教　授 歯博	安彦　善裕	・口腔疾患発症に関わるｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｯｸｽとその治療への応用
	講　師 歯博	佐藤　　惇	・上皮性抗菌ﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞに関する研究
	助　教 歯博	吉田　光希	・口腔疾患の発症に関するｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽ
	助　教 歯博	森川　哲郎	・歯周病原菌の脳への影響に関する研究
（内科学）	教　授 医博	髙橋　伸彦	・肥満や糖・脂質代謝異常の病態および骨代謝とのクロストークに関する分子生物学的検討
	准教授	大村　一将	・凝固系ｶｽｹｰﾄﾞと炎症応答との分子生物学的関連に関する検討
口腔構造・機能発育学系			
（歯科矯正学）			
	教　授 歯博	飯嶋　雅弘	・歯科矯正用材料に関する研究
	講　師 歯博	六車　武史	・矯正用ﾜｲﾔｰとﾌﾞﾗｹｯﾄの表面処理による摩擦特性
	講　師 歯博	岡山　三紀	・分子生物学的手法を用いた歯の移動と歯根吸収に関する研究
	助　教 歯博	山崎　敦永	・ﾏﾗｯｾ遺残上皮が歯周組織に与える影響
	助　教 歯博	中尾　友也	・関節負荷に対する顎関節領域の反応特性に関する研究
	助　教 歯博	川村　尚彦	・頭蓋顎顔面領域における骨補填用途の3Dバイオプリンティングスキャフォールドの開発
※	助　手 歯博	富田　侑希	・口腔内ｽｷｬﾅと3Dﾌﾟﾘﾝﾀの精度と歯科矯正学的有用性に関する検討
※	助　手 歯博	山田　隆介	・
（小児歯科学）	教　授 歯博	齊藤　正人	・口腔粘膜の分化･増殖における抗細菌性ﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞの関与
	准教授 歯博	広瀬　弥奈	・唾液、歯垢によるｶﾘｴｽﾘｽｸ診断と部位特異性を考慮したう蝕予防法の確立
	講　師 歯博	八幡　祥子	・ｴﾅﾒﾙ質表層ﾌｯ素濃度および歯垢の齲蝕誘発能における口腔内部位特異性に関する研究
	講　師 歯博	倉重　圭史	・歯髄由来、未分化間葉系幹細胞に関する研究
	助　教 歯博	野呂　大輔	・ﾏﾗｯｾ上皮様細胞が骨芽細胞様細胞に与える影響について
	助　教 歯博	大友麻衣子	・ﾏﾗｯｾ上皮様細胞がｾﾒﾝﾄ質および歯槽骨に与える影響に関する研究
	助　教 歯博	福田　敦史	・歯垢における齲蝕誘発能の口腔内部位特異性に関する研究
※	助　手 歯博	榊原さや夏	・球状微粒子添加によるMTAｾﾒﾝﾄの操作性改善とその象牙質誘導能
※	助　手 歯博	藤田　裕介	・接着性モノマーのカルシウム塩を配合した新規ボンディング座の開発
※	助　手	小橋　美里	・
（保健衛生学）	教　授 歯博	三浦　宏子	・地域在住高齢者の歯科口腔保健に関する疫学研究
	教　授 歯博	千葉　逸朗	・ｽﾘﾗﾝｶにおける口腔がんの分子疫学的解析、化学予防に関する研究
	准教授 臨床心理博	松岡　紘史	・心身症の認知行動的ﾒｶﾆｽﾞﾑの検討および治療法の開発
	講　師 歯博	水谷　博幸	・地域口腔保健ｻｰﾋﾞｽに関する疫学調査に関する研究
	助　教 歯博	植原　　治	・口腔疾患とｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽ修飾の関係について
※	助　手 歯博	石原　　匠	・健康保険のデータを活用した歯周病と全身疾患との関係に関する研究
（解剖学）	教　授 歯博	入江　一元	・骨および歯周組織の改造と再生に関する細胞生物学的研究
	助　教 歯博	渋井　　徹	・歯槽骨の改造と骨細胞の生存における低酸素応答因子の役割
	助　教 歯博	髙橋　昌己	・ヒト頭部の副交感神経節における肉眼解剖学的・組織学的研究
（組織学）	教　授 歯博	細矢　明宏	・歯髄幹細胞の特性解析と象牙質再生療法への応用
	助　教 歯博	建部　廣明	・歯槽骨の再生に関する細胞生物学的研究
口腔生物学系			
（生理学）	教　授 歯博	石井　久淑	・顎・顔面・頭部領域の血流動態における三叉－自律神経系の役割とそれらの関連脳領域の機能修飾機構に関する研究
	講　師 歯博	佐藤　寿哉	・口腔顔面領域における三叉神経・自律神経反射に関連する分子生物学的研究
	助　教 歯博	石川　里奈	・
（生化学）	教　授 栄養博	荒川　俊哉	・ｹﾞﾉﾑ編集とﾒｶﾆｶﾙｽﾄﾚｽによるｼｸﾞﾅﾙを応用した歯根膜の再生研究
	助　教 理博	尾西みほ子	・白血球の生体防御酵素に関する研究
			・歯牙硬組織に関する研究
	助　教 歯博	髙田　鮎子	・
（薬理学）	教　授 理博	谷村　明彦	・蛍光分子ｾﾝｻｰとｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ技術の開発と応用
	准教授 歯博	根津　顕弘	・In vivoﾗｲﾌﾞｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞを使った唾液腺のｶﾙｼｳﾑ応答と唾液分泌機構の解明
	助　教 歯博	村田　佳織	・歯原性上皮細胞の分化とﾏｲｸﾞﾚｰｼｮﾝにおけるｶﾙｼｳﾑ応答の解析
（微生物学）	教　授 薬博	永野　恵司	・歯周病関連細菌の性状および病原因子に関する研究
			・細菌の薬剤耐性機構に関する研究
			・口腔細菌由来バクテリオファージの探索と口腔ケアへの応用に関する研究
	講　師 歯博	宮川　博史	・歯周疾患における糖非分解性偏性嫌気性グラム陽性桿菌の役割
			・新規口腔細菌の分離およびゲノム解析による分類
	助　教 歯博	藤田　真理	・植物由来精油の口腔ケア（抗菌および消臭）への利用に関する研究
			・Prevotellaの口腔内定着機構ならびにバイオフィルム形成機構の解析
総合教育学系			
（臨床教育管理運営）	教　授 歯博	長澤　敏行	・歯周病原細菌とｱﾎﾟﾘﾎﾟ蛋白の分子相同性がもたらす心臓血管系疾患の診断と治療
	講　師 歯博	村田　幸枝	・ｴﾅﾒﾙ質表層下脱灰における再石灰化に関する研究
	講　師 歯博	川西　克弥	・口腔機能低下が脳神経活動に及ぼす影響に関する研究
（歯学教育開発学）	教　授 歯博	伊藤　修一	・接着性修復材料の耐久性に関する研究
	准教授 歯博	門　　貴司	・ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄの表面改質に関する研究
教養教育学系			
（人間基礎科学）	教　授 TESOL修	塚越　博史	・EFL教材開発ｽﾄﾗﾃｼﾞｰ
			・異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ･医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育法
	准教授 比較社会文化学博	佐藤　圭史	・国際関係論：ﾕｰﾗｼｱ地域における地域紛争・民族紛争の生成要因分析、大衆動員・扇動のﾒｶﾆｽﾞﾑ分析
	講　師 学際情報修	礒部　太一	・科学技術・医学に関わる倫理的・法的・社会的問題の研究
			・科学技術・医学と社会の関係性
	講　師 理博	中野　諭人	・主に分光的手法による誘電体および強相関電子系における各種相転移の転移ﾒｶﾆｽﾞﾑの研究
			・弾性光散乱を用いた高密度粒子系の粒子ｻｲｽﾞ評価法の研究

※　任期制助手

○看護福祉学部

講座	職位・学位	氏名	主な研究内容
看護学科			
【生命基礎科学】	教　授 医博	西　　基	・小児悪性腫瘍の疫学的研究
			・社会病理現象の疫学的研究
	教　授 医博	小林　正伸	・低酸素･低栄養環境に対する癌細胞の適応機構
			・幹細胞の定着と移動の機構
			・口腔ﾌﾛｰﾗと消化器がんの発症
	教　授 医博	濱田　淳一	・がんの転移・浸潤の機序解明とその阻止法の開発
			・がん細胞の多様性の出現および維持機構の解明
【実践基礎看護学】	教　授 看護博	平　　典子	・がん患者と家族の適応に関する研究
	准教授 看護博	明野　伸次	・エビデンスに基づく看護技術の可視化と開発に関する研究
	講　師 看護博	福井　純子	・看護職のキャリア開発と支援に関する研究、看護組織運営・継続教育に関する研究
	助　教 看護修	横川亜希子	・ポケットエコーを用いた便秘ケアに関する研究
	助　教	米川　弘樹	・
	助　教	新見　千穂	・
	助　教	白川そよか	・
【成人看護学】	教　授 看護博	佐々木栄子	・神経難病療養者と家族を対象とした多職種協働型ｾﾙﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ支援ﾓﾃﾞﾙ構築
	准教授 看護修	唐津　ふさ	・慢性病者の病いとの折り合いに関する研究
	講　師 看護修	熊谷　歌織	・がんサバイバーのスティグマに関する研究
	講　師 看護修	神田　直樹	・医療過疎地域の救急看護師への支援に関する研究
	助　教 看護修	髙木　由希	・慢性疾患患者のExistential well-being に関する研究
	助　教 看護修	伊藤加奈子	・ｸﾛｰﾝ病患者における病気の不確かさと関連要因に関する研究
	助　教	高橋　啓太	・
	助　教 看護修	前川　真湖	・
	助　教 看護修	清水　博美	・
	助　教	秋野　愛菜	・
【母子看護学】	教　授 看護博	三国　久美	・小児の発達支援と育児支援
	准教授 看護博	木浪智佳子	・重症心身障害児者の支援に関する研究
	准教授 看護修	常田　美和	・開発途上国におけるﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸﾃｨﾌﾞ･ﾍﾙｽ
	講　師 文修	遠藤紀美恵	・生殖補助医療の倫理的課題
			・産後の母親に対する健康支援
	講　師 看護修	加藤　依子	・食物ｱﾚﾙｷﾞｰの乳幼児を持つ親への支援
	助　教	川﨑ゆかり	・妊婦と新生児の母親を対象にした子育て中に困らないための子どものスキンケア
	助　教 看護修	嶋田あゆみ	・ﾊｲﾘｽｸ母子の母乳育児支援
【地域保健看護学】	教　授 看護博	山田　律子	・認知症高齢者の摂食・咀嚼・嚥下障害と食支援に関する研究
	教　授 看護博	竹生　礼子	・がんや終末期療養者の在宅療養継続を可能にするための看護援助に関する研究
	教　授 看護博	工藤　禎子	・地域在住高齢者の孤立予防、ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸ、危機管理
	准教授 看護修	八木こずえ	・統合失調症患者の自我強化及びうつ病患者の看護面接に関する研究
	准教授 看護修	宮地　普子	・認知症高齢者の生活世界に応じた看護ｹｱの検討
	講　師 看護修	内ヶ島伸也	・認知症高齢者の意思決定支援に関する研究
	講　師 看護修	川添恵理子	・疾病や障害をもちながら生活の場を移動する人の支援に関する研究
	講　師 看護修	明野　聖子	・乳幼児期の親の発達と育児をする喜びに関する研究
	講　師 看護修	御厩美登里	・訪問看護師の職場環境及び、訪問看護業務中の交通事故に関する研究
	助　教 看護修	中安　隆志	・精神障害者の地域生活支援に関する研究
	助　教 看護修	吉岡　真由	・認知症高齢者の終末期における食生活に関する研究
	助　教 看護修	舩橋久美子	・認知症高齢者の低栄養に関する研究
	助　教 看護修	若濱奈々子	・高齢者の熱傷に関する看護ケアの研究
	助　教 看護修	田中　裕子	・若年性認知症者の退院支援に関する研究
	助　教 看護修	増田　悠佑	・
	助　教	南山斗志世	・
【臨床看護学】	教　授 公衆衛生博	塚本　容子	・「医療の質保証・向上に関する研究」及び「HIVに関する研究」
	講　師 看護修	石角　鈴華	・
	講　師 看護修	山田　　拓	・
	助　教 看護修	三津橋梨絵	・
臨床福祉学科			
【社会福祉学】	教　授 教育博	白石　　淳	・子どもの進路選択におけるﾊﾞﾘｱの形成とその支援に関する研究
	教　授 教育博	大友　芳恵	・高齢者の貧困～低所得高齢者の生活実態と尊厳をめぐる諸課題の検討～
	准教授 文修	長谷川　聡	・地域コミュニケーションと福祉のまちづくり実践研究
	准教授 社会福祉修	巻　　康弘	・医療ソーシャルワークチームの構造とスーパービジョンに関する研究
			・ソーシャルワークスキルの評価方法に関する研究
	講　師 教育修	福間　麻紀	・社会的・経済的条件の違いによる障害者の生活困難の解明
	講　師 社会福祉博	中田　雅美	・過疎地域におけるソーシャルワークに関する研究
	講　師 社会福祉博	松本　　望	・施設内虐待の予防に関する研究
	助　教 教育修	近藤　尚也	・重度障害児者の身体活動と日常生活及び余暇活動支援に関する研究
	助　教 臨床福祉修	片山　寛信	・児童養護施設等の退所者のアフターケアに関する研究
【精神保健福祉学】	教　授	向谷地生良	・当事者研究活動を通じた精神障害者のｾﾙﾌｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄに関する研究
			・専門家・住民間のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと地域福祉ｼｽﾃﾑづくりに関する研究
	准教授 臨床福祉修	佐藤　園美	・精神障害者の地域支援に関する研究
	講　師 SW修	奥田かおり	・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ(ﾌﾟﾚｲﾊﾞｯｸｼｱﾀｰ、SST等)の効力、治癒力についての研究
			・ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習現場での効果的なｽｰﾊﾟｰﾋﾞｼﾞｮﾝ法についての研究
	助　教 社会福祉修	鈴木　　和	・福祉専門職として働く人の支援
			・福祉職としてのキャリア形成について
【介護福祉学】	教　授 社会修	志水　　幸	・社会福祉理論研究における方法論的課題に関する検討
	講　師 社会修	志水　　朱	・介護福祉実習におけるｶﾝﾌｧﾚﾝｽのあり方について
	講　師 社会福祉修	池森　康裕	・高齢者の社会活動と介護予防に関する研究
	講　師 看護修	下山美由紀	・老人福祉施設に勤務する看護代表者の役割意識に関する研修
	講　師 看護修	今野多美子	・
	助　教	高橋　由紀	・認知症高齢者の家族支援に関する研究
【人間基礎科学】	教　授 社会博	花渕　馨也	・ｱﾌﾘｶ系移民による故郷への援助活動に関する人類学的研究
	教　授 社会修	薄井　　明	・会話を焦点とする相互行為の社会学的研究
	准教授 文修	鎌田　禎子	・英米文学研究､特に19世紀から現代までのｱﾒﾘｶ散文
	講　師 言語博	ｼｮｰﾝ ﾎｶﾞｰﾄﾞ	・SNSにおける第二言語習得・コミュニケーション行動と態度に関する研究
	講　師 文博	井上　貴翔	・探偵小説を中心とした日本近現代文学及び日本近現代文化に関する研究
	講　師 経済博	金盛　直茂	・天然資源や海外援助による所得格差の研究
	助　教 体育科学修	福家　健宗	・快感情を伴う低強度運動が認知機能にもたらす効果の検証

○心理科学部

学科	職位・学位	氏名	主な研究内容
臨床心理学科	教　授 障害科学博	冨家　直明	・児童・生徒の健全発達に関わる学校臨床心理学的研究
	教　授	野田　昌道	・協働的/治療的ｱｾｽﾒﾝﾄの適用法及び効果についての研究
			・ﾛｰﾙｼｬｯﾊ･ﾃｽﾄによる家族関係のｱｾｽﾒﾝﾄに関する研究
	教　授 心理博	安部　博史	・学習・情動に関する生理心理学的検討
	教　授 医博	中野　倫仁	・老年期精神障害の認知生理学的研究と治療技法開発
	教　授 文修	森　伸幸	・認知行動療法、とくに認知の変容に関する基礎および応用的研究
	教　授 臨床心理博	百々　尚美	・ｽﾄﾚｽ状況下での高敵意者の自律神経機能を改善するための心理学的介入技法の開発
	准教授 文修	河合　祐子	・ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞにおける協働関係構築ﾌﾟﾛｾｽとｸﾗｲｴﾝﾄ・ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ効果の研究
	准教授 教育修	今井　常晶	・臨床家（臨床心理士・音楽療法士）のｽｰﾊﾟｰﾋﾞｼﾞｮﾝの望ましいあり方についての研究
	准教授 臨床心理博	金澤潤一郎	・成人期の発達障害に対する認知行動療法
	准教授 臨床心理博	本谷　亮	・慢性疼痛に対する認知行動的ﾒｶﾆｽﾞﾑおよび治療法に関する研究
	講　師 行動科学修	齊藤　恵一	・人間の言語情報処理過程に関する研究
	講　師 文博	真島　理恵	・協力行動の適応的基盤に関する研究
	講　師 教育修	松本由起子	・近代的家族像の歴史研究としての20世紀前半における英国精神分析の動向
	講　師 医博	西郷　達雄	・過敏性腸症候群における認知行動理論を基盤としたﾒｶﾆｽﾞﾑの解明と治療ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの開発
			・大学生における修学不適応を中心とした休学および退学に関する予防的研究
	助　教 臨床心理博	関口　真有	・糖尿病患者に対する問題解決療法ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの作成と効果検証
	助　教 臨床心理修	河村　麻果	・心理援助職初任者の研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの開発について
			・認知行動療法をより効果的に提供するためのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技能の検討
	助　教 情報科学博	西牧　可織	・動的再構成可能な光素子を用いた光通信ｼｽﾃﾑに関する研究
	助　教 心理博	福田　実奈	・ヒトにおける古典的条件づけの働きに関する研究

○リハビリテーション科学部

学科	職位・学位	氏名	主な研究内容
理学療法学科	教　授	泉　唯史	・運動強度増加に対する左室収縮能および拡張能応答変化の評価法の開発および解析
	教　授 医博	小島　悟	・ﾋﾄの姿勢制御及び身体動作に関するﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ研究
	教　授 保健博	鈴木　英樹	・積雪寒冷地における高齢者の転倒骨折予防の方策に関する研究
	教　授 学術博	高橋　尚明	・解剖学的視点を用いた姿勢管理、ならびに運動解析に関する研究
	教　授 医博	吉田　晋	・姿勢・運動制御に関する中枢神経ﾒｶﾆｽﾞﾑの解明とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝへの応用
	教　授 医博	青木　光広	・運動器疾患の病態の解明につながるﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ研究、特にｽﾎﾟｰﾂ障害と高齢者疾患について
	教　授 障害科学修	武田　涼子	・日常生活活動の定型性と動作選択に関する身体運動学的研究
	教　授 歯博	山口　明彦	・運動による骨格筋線維組成の変化及び筋肥大に関する研究
	准教授 学術博	宮﨑　充功	・骨格筋の可塑性を制御する分子機構の解析
	講　師 保健科学博	長谷川純子	・発展途上国で簡便に使用可能な初期低栄養児ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ法の開発
			・積雪寒冷地に居住する高齢者の季節性フレイルに関する研究
	講　師 医科学修	佐々木祐二	・徒手的理学療法の手技と効果に関する研究
	講　師 ｽﾎﾟｰﾂ科学修	澤田　篤史	・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに対する臨床栄養学的ｱﾌﾟﾛｰﾁ法の検討
			・がん悪液質患者の骨格筋に対する理学療法とBCAA摂取の効果
	講　師 理学療法博	大須田祐亮	・小児理学療法分野の評価・介入に関する研究
	講　師 体育科学博	井上恒志郎	・運動で高まる海馬の神経可塑性とその分子基盤の解明
	助　教 理学療法修	中村　宅雄	・筋骨格系に対する機能解剖と理学療法への応用
	助　教 理学療法修	山根　裕司	・健常人における体幹屈曲伸展時の胸腰椎の運動学的解析
	助　教 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ修	大内みふか	・骨盤底機能障害に対する運動療法に関する研究
	助　教 理学療法修	佐藤　一成	・臨床実習指導における研究
	助　教 学術博	鈴木　伸弥	・ﾋﾄの運動調節にかかわる神経機序の解明とその応用
	助　教 健康科学博	岩部　達也	・呼吸が中枢神経系に及ぼす影響とその臨床応用
	助　教 保健学修	多田　菊代	・生活習慣病を主とする成人保健学領域の理学療法および高齢者の健康支援に関する研究
作業療法学科	教　授 作業療法博	鎌田　樹寛	・作業療法における手工芸に対する自己効力評価表の開発に関する研究
	教　授 作業療法博	本家　寿洋	・高齢者の余暇活動の楽しさにおける治療開発とその効果に関する研究
	教　授 ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ心理修	近藤　里美	・医療保健福祉現場での音楽療法の質的研究
			・音楽療法士の継続教育
	教　授 法学修	岩瀬　義昭	・作業療法に関する教育学・教育史　作業分析学
	准教授 芸術工博	浅野　雅子	・精神障害者に対する音楽療法の介入研究
	准教授 作業療法博	坂上　哲可	・高齢者の主観的健康観と作業ﾊﾞﾗﾝｽの関係について
	講　師 人間生活修	浅野　葉子	・高齢者の社会参加の意味に関する研究
	講　師 社会福祉修	朝日まどか	・高齢者リハビリテーションにおける規範と権力に関する研究
	講　師 保健科学修	木村　恵	・発達領域における視覚認知評価ﾊﾞｯﾃﾘｰに関する研究
	講　師 保健科学博	桜庭　聡	・
	講　師 作業療法博	児玉　壮志	・精神疾患の予防に関する研究
	講　師 歯博	西出　真也	・ﾏｳｽの行動や生理指標の測定、および蛍光や生物発光を利用した細胞ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞによる、概日ﾘｽﾞﾑの研究
	助　教 文博	山田　桃子	・
言語聴覚療法学科	教　授 歯博	今井　智子	・音韻発達および音韻障害に関する要因についての研究
	教　授 医博	下村　敦司	・転写およびｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽ制御による聴神経分化ﾒｶﾆｽﾞﾑの解明
	教　授 医博	中川　賀嗣	・脳と精神的現象の相関に関する神経心理学的研究
	教　授 医博	西澤　典子	・実験音声学的手法による発声発語系の生理、病態の研究
	教　授 医博	田村　至	・認知症、記憶障害、失語症など高次脳機能障害研究
	准教授 理修	榊原　健一	・歌声および音声の非言語的特徴の生成、知覚に関する研究
	准教授 障害科学博	橋本　竜作	・文字言語学習とその障害に関する神経心理学的研究
	准教授 学術修	福田　真二	・日本語における特異的言語障害の言語学的考察による研究
	准教授 哲博	森元　良太	・科学哲学、とくに生物学と確率・統計の哲学に関する研究
	講　師 学術博	黒﨑　芳子	・失語症、高次脳機能障害に関する神経心理学的研究
	講　師 医博	柳田　早織	・痙攣性発声障害を中心とする音声障害の定量的評価法および治療効果に関する研究
	講　師 言語聴覚修	前田　秀彦	・直接骨導音を利用した無喉頭音声使用者用携帯型拡声器の開発
			・CE-Chirp音による他覚的聴力評価法の研究
	講　師 教育修	小林　健史	・言語・コミュニケーション障害児の評価法、支援法、支援体制に関する研究
	講　師 人間科学博	畠山　彰文	・医療従事者におけるデータ解析と統計教育
			・自然環境特に森林が心身の健康に及ぼす影響に関する環境心理学的研究
	助　教 歯博	飯泉　智子	・摂食・嚥下機能の生理およびﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ介入法に関する研究
	助　教 言語聴覚修	葛西　聡子	・「小児における人工内耳装用と構音の関係」についての研究
	助　手	熊谷　萌	・

○医療技術学部

部門	職位・学位	氏名	主な研究内容
	教　授 医博	幸村　　近	・循環器疾患における血栓止血関連、生理機能関連の臨床検査
	教　授 歯博	田中　真樹	・ﾃﾞｷｽﾄﾗﾝ硫酸ﾅﾄﾘｳﾑ誘発腸炎ﾏｳｽにおけるｴｿﾞｳｺｷﾞの効果に対する基礎的検討
	教　授 医博	遠藤　輝夫	・胎児・新生児溶血性疾患の発症予測としての高感度IgGサブクラス解析
			・輸血・移植、化学的検査法の改良と臨床検査への応用
	教　授 医博	吉田　　繁	・遺伝子検査の標準化に関する研究
	教　授 医博	坊垣　暁之	・自己免疫疾患に関する研究
	教　授 医博	松尾　淳司	・細胞内寄生体による宿主細胞への感染機構の解析
	教　授 医博	坂倉　康則	・軟骨細胞・骨細胞の生存に関わる分子メカニズムの解明
	講　師 医博	丸川　活司	・遺伝子発現プロファイルに基づく膵臓癌の免疫組織化学的サブタイピングの確立
			・分子病理学的検索を目的とした体腔液セルブロック作製法に関する研究
	講　師 医博	近藤　　啓	・口腔細胞診における細胞判定基準に関する研究
	講　師 医博	江本　美穂	・病態ﾓﾃﾞﾙﾏｳｽを用いた脳内酸化ｽﾄﾚｽのｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究
	講　師 医博	髙橋　祐輔	・機能性植物がﾋﾄ血液細胞に及ぼす影響およびその分子機構の解析
	講　師 保健博	髙橋　祐司	・高比重ﾘﾎﾟﾀﾝﾊﾟｸ質（HDL）亜分画中のｺﾚｽﾃﾛｰﾙ測定に関する研究
			・輸血・移植検査に関する研究
	講　師 保健博	山﨑　智拡	・寄生性細菌の病態形成機構に関する研究
	講　師 理博	鈴木　喜一	・分子整列技術を利用した、円二色性光電子分光の新展開
	講　師 TESOL修	白鳥亜矢子	・ﾀｽｸを用いた英語教授法の研究
	/応用言語修		・ﾀｽｸ関連研究
	助　教	小野　誠司	・生体で発生する微小電位計測
	助　教	沖野久美子	・超音波診断装置を用いた生体の生理学的機能解析、および循環器・実質臓器・筋骨格系における病態解析に関する研究

○予防医療科学センター

部門	職位・学位	氏名	主な研究内容
【医学部門】	教　授 医博	北市　伸義	・ベーチェット病など炎症性疾患および眼感染症の免疫学的、分子遺伝学的、および国際的研究
	教　授 医博	森谷　　満	・胃潰瘍、機能性ﾃﾞｨｽﾍﾟﾌﾟｼｱ、糖尿病の心身医学的研究
			・ｺｰﾁﾝｸﾞ心理学の応用と幸せへの医学に関する研究
	教　授 医博	工藤　俊彦	・
	教　授 歯博	岡村　敏弘	・医療政策・医療管理学的観点からみた医療費の地域格差の分析と対応及び評価のあり方に関する研究
	教　授 医博	福田　　諭	・
	教　授 医博	吉田　純一	・
	教　授	小林　國彦	・接着性レジンの臨床応用に関する研究
	准教授 医博	柴田　睦郎	・根拠に基づく臨床における質的ﾃﾞｰﾀの評価法（ｴﾋﾞﾃﾞﾝｽのﾚﾍﾞﾙ）の検討
	准教授 医博	田中　雅則	・
	准教授 医博	河野　　豊	・機能性植物を用いた脂肪性肝疾患への治療応用に関する基礎的検討
	准教授 医博	平岡　美紀	・眼内炎症における酸化ストレスとリン脂質変化の検討
	講　師	櫻田　理佳	・
	講　師 医博	齋藤　晶理	・
	講　師	島田　康亮	・
	講　師 医博	正木　芳宏	・
	助　教	西村　萌美	・

○先端研究推進センター

	職位・学位	氏名	主な研究内容
	教　授 医博	太田　　亨	・ｹﾞﾉﾑｲﾝﾌﾟﾘﾝﾃｨﾝｸﾞ機構の解明
	教　授 医博	藏滿　保宏	・膵癌予防開発の研究
	助　教 歯博	髙井　理衣	・口腔および全身疾患の発症とｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽに関する研究
	助　教 工博	北川　孝博	・染色体転座による癌発生機構に関する研究

（2）担当授業時間

専任教員の「授業担当時間」、「兼担状況」、他大学の非常勤講師等の「兼任状況」、及び「本学出身比率」を以下に示した。本務の授業担当では、同じ職位においても担当時間数に大きな開きがみられることから、特定の教員に過大な負担がかからない配慮が求められる。

専任教員であるからには就業規則に則って職務を遂行し、教育や研究、学生指導、管理運営業務等の本務に専念することが当然の義務であるが、やむを得ない事由で学外勤務（出向）をせざるを得ない場合は、本務に支障が生じないことを条件として、教授会等の承認の下、週 1 日に限って認めている。

① 専任教員週当たり授業担当状況（2019 年度実績）

学部	区分	教授	准教授	講師	助教
薬学部（70 人）	最高	6.4	5.9	6.5	4.4
	最低	3.5	1.8	0.1	0.1
	平均	7.2	4.4	3.9	3.4
歯学部（105 人）	最高	9.8	6.6	5.8	5.8
	最低	0.6	0.9	0.9	0.3
	平均	5.1	4.3	2.8	2.3
看護福祉学部（ 69 人）	最高	10.1	7.3	9.6	8.3
	最低	2.8	3.2	0.1	0.2
	平均	5.0	5.4	5.5	5.0

	区分	教授	准教授	講師	助教
心理科学部（ 19 人）	最高	8.5	8.5	8.5	8.5
	最低	5.5	3.0	3.0	6.5
	平均	7.1	6.7	6.3	7.3
リハビリテーション科学部（ 52 人）	最高	14.0	11.2	10.9	7.2
	最低	5.6	5.5	5.7	3.5
	平均	9.3	8.1	7.0	5.0
医療技術学部（ 18 人）	最高	1.5	0.0	2.8	0.1
	最低	0.0	0.0	0.1	0.1
	平均	1.5	0.0	2.8	0.1

＊単位：時間（1 授業時間：80 分）　＊「海外研修中」「休職中」又は「育児休暇期間中」の教員は除く。

② 専任教員の兼担状況（2019 年度実績）

所属学部等	兼 担 先	教 授		准教授		講 師		助 教		合 計	
		人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数
薬学部	歯学部	1	9	1	19	1	8			3	36
	看護福祉学部	4	68							4	68
	心理科学部	1	8							1	8
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部										
	医療技術学部	1	1					1	1	2	2
歯学部	薬学部										
	看護福祉学部	1	4	1	12	1	4	1	30	4	50
	心理科学部										
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	3	9	1	30	1	8			5	47
	医療技術学部										
看護福祉学部	薬学部	1	2							1	2
	歯学部	3	9	3	13	2	4			8	26
	心理科学部	2	60	2	42	1	18			5	120
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	3	78			1	8	1	8	5	94
	医療技術学部					1	2			1	2
心理科学部	薬学部	2	17					1	59	3	76
	歯学部			2	16	1	30	1	30	4	76
	看護福祉学部	2	61	1	30	2	100	1	15	6	206
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部			2	38	2	54	1	30	5	122
	医療技術学部	2	17							2	17
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	薬学部	3	109	1	3	3	36			7	148
	歯学部	10	141	4	117	5	96	3	6	22	360
	看護福祉学部	10	307	3	68	3	68	3	52	19	495
	心理科学部	1	4	5	45	3	57	1	30	10	136
	医療技術学部					4	66	1	3	5	69
医療技術学部	薬学部									0	0
	歯学部									0	0
	看護福祉学部									0	0
	心理科学部									0	0
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部									0	0

＊全学教育推進センター教員による全学教育科目の担当は含まない。

③ 専任教員の兼任状況（2019 年度実績）

学部等		教授		准教授		講師		助教		合計	
		人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数
薬学部		11	197	4	127	1	30	1	8	17	362
	最大時間数		30		35		30		8		
	平均時間数		18		32		30		8		21
歯学部		13	65	3	50	8	133	5	65	29	313
	最大時間数		12		10		25		30		
	平均時間数		5		17		17		13		9
看護福祉学部		12	585	5	72	5	187	2	65	24	909
	最大時間数		120		30		60		30		
	平均時間数		49		14		37		33		38
心理科学部		5	66			2	120			7	186
	最大時間数		30				60				
	平均時間数		13				60				27
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部		10	157	4	63	6	175	3	38	23	433
	最大時間数		30		30		120		10		
	平均時間数		16		16		29		13		19
医療技術学部		5	78			3	125	2	13	10	216
	最大時間数		30				29		12		
	平均時間数		16				42		7		22
予防医療科学ｾﾝﾀｰ											
	最大時間数										
	平均時間数										

④ 専任教員の本学出身比率

学部等	職位	本学出身者・比率			
薬学部	講師以上	23	／	57	40.4%
	助教	8	／	14	57.1%
歯学部	講師以上	32	／	60	53.3%
	助教	37	／	42	88.1%
看護福祉学部	講師以上	19	／	48	39.6%
	助教	18	／	25	72.0%
心理科学部	講師以上	4	／	14	28.6%
	助教	2	／	4	50.0%
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	講師以上	1	／	40	2.5%
	助教	2	／	10	20.0%
医療技術学部	講師以上	1	／	15	6.7%
	助教	0	／	2	0.0%
予防医療科学ｾﾝﾀｰ	講師以上	0	／	15	0.0%
	助教	0	／	1	0.0%
先端研究推進ｾﾝﾀｰ	講師以上	0	／	2	0.0%
	助教	1	／	2	50.0%
合計	講師以上	81	／	251	32.2%
	助教	68	／	100	68.0%

（３）年齢構成

学部等	職位	66歳以上	61～65歳	56～60歳	51～55歳	46～50歳	41～45歳	36～40歳	31～35歳	30歳以下	計	平均年齢
薬学部	教 授	1	6	5	9	1	1				23	56.3
		4.3%	26.1%	21.7%	39.1%	4.3%	4.3%				100.0%	
	准教授		2	2	7	3	5				19	50.8
			10.5%	10.5%	36.8%	15.8%	26.3%				100.0%	
	講 師		1		3	3	5	2	1		15	45.7
			6.7%		20.0%	20.0%	33.3%	13.3%	6.7%		100.0%	
	助 教					2	2	4	5	1	14	37.4
						14.3%	14.3%	28.6%	35.7%	7.1%	100.0%	
	計	1	9	7	19	9	13	6	6	1	71	48.9
		1.4%	12.7%	9.9%	26.8%	12.7%	18.3%	8.5%	8.5%	1.4%	100.0%	
歯学部	教 授		6	13	5	6					30	56.5
			20.0%	43.3%	16.7%	20.0%					100.0%	
	准教授			3		2	2	2			9	48.2
				33.3%		22.2%	22.2%	22.2%			100.0%	
	講 師		2	1	5	3	6	4			21	48.1
			9.5%	4.8%	23.8%	14.3%	28.6%	19.0%			100.0%	
	助 教		2	1	3	9	5	12	8	2	42	41.8
			4.8%	2.4%	7.1%	21.4%	11.9%	28.6%	19.0%	4.8%	100.0%	
	任期制助手							5	14	9	28	31.7
								17.9%	50.0%	32.1%	100.0%	
	計	0	10	18	13	20	13	23	22	11	130	44.5
		0.0%	7.7%	13.8%	10.0%	15.4%	10.0%	17.7%	16.9%	8.5%	100.0%	
看護福祉学部	教 授	2	5	6	2	1					16	59.3
		12.5%	31.3%	37.5%	12.5%	6.3%					100.0%	
	准教授		1	2	5		2				10	53.8
			10.0%	20.0%	50.0%		20.0%				100.0%	
	講 師	1	1	1	4	5	7	2	1		22	47.7
		4.5%	4.5%	4.5%	18.2%	22.7%	31.8%	9.1%	4.5%		100.0%	
	助 教					1	7	8	5	4	25	37.1
						4.0%	28.0%	32.0%	20.0%	16.0%	100.0%	
	計	3	7	9	11	7	16	10	6	4	73	47.5
		4.1%	9.6%	12.3%	15.1%	9.6%	21.9%	13.7%	8.2%	5.5%	100.0%	
心理科学部	教 授		1	1	1	3					6	53.3
			16.7%	16.7%	16.7%	50.0%					100.0%	
	准教授		1	1			1	1			4	51.3
			25.0%	25.0%			25.0%	25.0%			100.0%	
	講 師				2			1	1		4	44.5
					50.0%			25.0%	25.0%		100.0%	
	助 教								3	1	4	33.0
									75.0%	25.0%	100.0%	
	計	0	2	2	3	3	1	2	4	1	18	46.4
		0.0%	11.1%	11.1%	16.7%	16.7%	5.6%	11.1%	22.2%	5.6%	100.0%	
リハビリテーション科学部	教 授	2	3	5	4	3					17	57.5
		11.8%	17.6%	29.4%	23.5%	17.6%					100.0%	
	准教授			2	1		4				7	48.1
				28.6%	14.3%		57.1%				100.0%	
	講 師					7	3	3	3		16	42.6
						43.8%	18.8%	18.8%	18.8%		100.0%	
	助 教					2	3	3	2		10	40.3
						20.0%	30.0%	30.0%	20.0%		100.0%	
	助 手									1	1	24.0
										100.0%	100.0%	
	計	2	3	7	5	12	10	6	5	1	51	47.5
		3.9%	5.9%	13.7%	9.8%	23.5%	19.6%	11.8%	9.8%	2.0%	100.0%	
医療技術学部	教 授		1	3	1	1	1				7	54.9
			14.3%	42.9%	14.3%	14.3%	14.3%				100.0%	
	講 師					2	2	3	1		8	40.9
						25.0%	25.0%	37.5%	12.5%		100.0%	
	助 教			1			1				2	51.0
				50.0%			50.0%				100.0%	
	計	0	1	4	1	3	4	3	1	0	17	47.8
		0.0%	5.9%	23.5%	5.9%	17.6%	23.5%	17.6%	5.9%	0.0%	100.0%	
予防医療科学センター	教 授	3		2	2						7	60.1
		42.9%		28.6%	28.6%						100.0%	
	准教授		2		1	1					4	57.3
			50.0%		25.0%	25.0%					100.0%	
	講 師						4				4	42.5
							100.0%				100.0%	
	助教									1	1	30.0
										100.0%	100.0%	
	計	3	2	2	3	1	4	0	0	1	16	53.1
		18.8%	12.5%	12.5%	18.8%	6.3%	25.0%	0.0%	0.0%	6.3%	100.0%	
先端研究推進センター	教 授			2							2	56.5
				100.0%							100.0%	
	助 教						1		1		2	37.0
							50.0%		50.0%		100.0%	
	計	0	0	2	0	0	1	0	1	0	4	46.8
		0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%	
大学合計		9	33	47	54	52	58	47	44	19	363	
		2.5%	9.1%	12.9%	14.9%	14.3%	16.0%	12.9%	12.1%	5.2%	100.0%	

（4）開設授業科目における専任・兼任比率

2020 年度に開講する授業科目を専門教育と全学教育に区分し、それぞれ専任教員が担当する授業科目の割合を算出し、以下に示した。授業科目の内容によっては学外の講師に依存せざるを得ないが、専任教員が高い専門性と責任性の下に教育課程に関与し、質の高い授業を提供するのが大学の責務である。本学の場合、とりわけ専門教育科目において、専任教員担当比率は高く授業担当の状況はおおむね適切であるといえる。なお、兼任教員が一部関わっている授業科目であっても、科目の責任者が専任教員である場合は専任教員が担当する科目に振り分けている。

学部・学科		区分		必修科目	選択科目	全開設授業科目
薬学部	薬学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	87	30	117
			兼任教員担当科目数(B)	0	0	0
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	100%	100%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	18	15	33
			兼任教員担当科目数(B)	0	2	2
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	88%	94%
歯学部	歯学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	54	12	66
			兼任教員担当科目数(B)	0	0	0
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	100%	100%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	25	7	32
			兼任教員担当科目数(B)	2	5	7
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	93%	58%	82%
看護福祉学部	看護学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	62	11	73
			兼任教員担当科目数(B)	4	3	7
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	94%	79%	91%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	5	24	29
			兼任教員担当科目数(B)	1	9	10
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	83%	73%	74%
	臨床福祉学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	17	85	102
			兼任教員担当科目数(B)	1	33	34
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	94%	72%	75%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	4	23	27
			兼任教員担当科目数(B)	2	10	12
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	67%	70%	69%
心理科学部	臨床心理学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	20	29	49
			兼任教員担当科目数(B)	0	18	18
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	62%	73%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	7	2	9
			兼任教員担当科目数(B)	2	16	18
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	78%	11%	33%
リハビリテーション科学部	理学療法学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	61	13	74
			兼任教員担当科目数(B)	0	1	1
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	93%	99%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	11	16	27
			兼任教員担当科目数(B)	1	5	6
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	92%	76%	82%
	作業療法学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	71	10	81
			兼任教員担当科目数(B)	0	2	2
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	83%	98%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	12	15	27
			兼任教員担当科目数(B)	1	5	6
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	92%	75%	82%
	言語聴覚療法学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	55	9	64
			兼任教員担当科目数(B)	1	2	3
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	98%	82%	96%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	10	17	27
			兼任教員担当科目数(B)	1	5	6
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	91%	77%	82%
医療技術学部	臨床検査学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	44	1	45
			兼任教員担当科目数(B)	0	0	0
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	100%	100%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	14	9	23
			兼任教員担当科目数(B)	0	7	7
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	56%	76%

2. 教育研究支援職員（TA・RA・PD）

本学では、大学院生の奨学に資することを目的として1993年度からTA（ティーチング・アシスタント）制度、1996年度からRA（リサーチ・アシスタント）制度を導入している。TAは授業（教育）の補助的業務、RAはプロジェクト研究等の補助的業務に従事し、教育研究の活性化と高度化を図るものである。2018年度は、合計80名（TA61名、RA19名）を採用している。
また、大学院修了者に対しては、1997 年から特別研究員：PD(ポスト・ドクトラル・フェロー)制度を導入し、学術研究の将来を担う創造性に富んだ若手研究者の養成を行っており、2016 年度には特別研究員：PD の資格要件から年齢制限を撤廃した。

（1）TA(ティーチング・アシスタント)

① 目的

本学大学院生が、本学の教育業務の遂行を補助し、かつ大学院学生の奨学に資することを目的とする。

② 採用資格

修士課程及び歯学研究科博士課程1・2学年の大学院生
（1996 年度から対象学生を博士課程から修士課程に拡大）

③ 業務内容

以下のいずれかの業務を行う。
○ 各学部等の講義・実習(実験)・演習等の授業の補助業務
○ 授業実施に関連する前準備・後始末等の業務
○ 指導教授が命ずる業務

④ 採用人数

（名）

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
薬学部	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
歯学部	26 名	23 名	27 名	28 名	28 名	28 名
看護福祉学部	10 名	10 名	10 名	8 名	7 名	4 名
心理科学部	21 名	20 名	20 名	23 名	24 名	23 名
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	1 名	1 名	1 名	2 名	2 名	3 名
計	58 名	54 名	58 名	61 名	61 名	58 名

（2）RA(リサーチ・アシスタント)

① 目的

本学大学院の教育研究の活性化・高度化を図るとともに、大学院学生の奨学に資することを目的とする。

② 採用資格

博士課程の大学院生

③ 業務内容

本学で行うプロジェクト研究等の補助的業務

④ 採用人数

（名）

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
薬学研究科	9 名	9 名	7 名	5 名	6 名	9 名
歯学研究科	6 名	9 名	10 名	14 名	16 名	15 名
看護福祉学研究科	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
心理科学研究科	5 名	4 名	1 名	0 名	1 名	0 名
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学研究科	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
計	20 名	22 名	18 名	19 名	23 名	15 名

（3）PD(ポスト・ドクトラル・フェロー)

① 目的

本学大学院の研究の活性化・高度化を図るため、学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者を育成することを目的とする。

② 採用資格

○ 採用時に博士の学位を取得している者及び人文・社会科学の分野においては、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者
○ 採用時の年齢が満 35 歳未満の者

③ 業務内容

本学で行うプロジェクト研究等の研究

④ 採用人数

（名）

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
歯学研究科	1 名	2 名	0 名	2 名	1 名	1 名
看護福祉学研究科	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名

3. 教育研究活動

(1)教育改革への取組(特色・現代・教育Good Practice)

文部科学省では、各大学などにおける大学改革の取組が一層推進されるよう、全国の国公私立大学から大学教育の改善・改革に関する様々な取組について公募し、特色・個性ある優れた取組を選定し、財政支援を行っている。
本学の実績として、2003 年度 1 件、2004 年度 1 件、2007 年度 5 件、2008 年度 3 件、2009 年度 1 件、2012 年度 2 件が選定されている。
さらに、2017 年度には道内 4 大学との共同申請による「人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン －多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材の養成－」を申請し選定され、本事業は4年目を迎える。

【選定された取組】

2003 年度: ①特色ある大学教育支援プログラム(本学単独申請)
地域・大学連携による医療系基本教育-ボランティア活動による教育を中心に-

2004 年度: ①現代的ニーズ取組支援プログラム(本学単独申請)
地域への健康支援と融合・連携した学生教育

2007 年度: ①がんプロフェッショナル養成プラン(他大学との共同申請)
北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム

②現代的教育ニーズ取組支援プログラム(他大学との共同申請)
双方向型医療コミュニケーション教育の展開
-多職種参加型「メディカルカフェ」の開設による地域医療の向上を目指して-

③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム(他大学との共同申請)
全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座

④大学院教育支援プログラム(本学単独申請)
臨床心理学専攻-科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育

⑤大学院教育支援プログラム(本学単独申請)
言語聴覚学専攻-言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院-医療技術系大学院の教育モデル-

2008 年度: ①戦略的大学連携支援事業(他大学との共同申請)
北海道の地域医療の新展開を目指した異分野大学院連携教育プログラムによる人材教育

②戦略的大学連携支援事業(他大学との共同申請)
口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考

③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム(他大学との共同申請)
地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム

2009 年度: ①大学教育・学生支援推進プログラム(本学単独申請)
「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援

2012 年度: ①がんプロフェッショナル養成基盤推進プログラム(他大学との共同申請)
北海道がん医療を担う医療人養成プログラム-地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進-

②大学間連携共同教育推進事業(他大学との共同申請)
ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

2017 年度: ①多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン(他大学との共同申請)
人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン －多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材の養成-

○2003 年度選定
①特色ある大学教育支援プログラム(本学単独申請)
「特色ある大学教育支援プログラム」とは、各大学が実施している大学教育の改善・改革に関する様々な取組について、全国の国公私立大学から文部科学省が公募し、審査・評価を経て、そのうち特色ある優れたものを選定する制度である。選定されたプログラムは、広く社会に情報提供されるとともに、今後の大学教育の改善モデルとして活用されることになり、本学は、全国 664 件の応募の中から選定された 80 件のひとつに選定されたものである。
なお、本取組は、文部科学省の大学改革推進等補助金(大学改革推進経費)対象事業として、2003 年度から 2006 年度までの 4 年間にわたり助成を受けた。

取組名称:地域・大学連携による医療系基本教育-ボランティア活動による教育を中心に-
■大学改革推進等補助金受給の状況 (千円)

2003 年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	計
15,000	1,348	3,650	5,613	25,611

○2004 年度選定
①現代的教育ニーズ取組支援プログラム(本学単独申請)
「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」は、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト(取組)を選定し、財政支援を行うことで、高等教育のさらなる活性化が促進されることを目的とするもので、本学は、全国 559 件の応募の中から選定された 86 件のひとつに選定されたものである。
なお、本取組は、文部科学省の大学改革推進等補助金(大学改革推進経費)対象事業として、2004 年度から 2006 年度までの 3 年間にわたり助成を受けた。

取組名称:地域への健康支援と融合・連携した学生教育
■大学改革推進等補助金受給の状況 (千円)

2004 年度	2005 年度	2006 年度	計
11,838	3,459	5,371	20,668

○2007 年度選定
①がんプロフェッショナル養成プラン(他大学との共同申請)
「がんプロフェッショナル養成プラン」は、国公私立大学から申請されたプログラムの中から、質の高いがん専門医等を養成し得る内容を有する優れたプログラムに対し、財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、今後のがん医療を担う医療人の養成推進を図ることを目的として実施されているもので、本学と札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学の 4 大学が、「北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム」の取組名称の下に共同申請し、選定されたものである。
なお、本取組は、文部科学省の大学改革推進等補助金(大学改革推進経費)対象事業として、2007 年度から 2011 年度までの 5 年間にわたり助成され、補助事業終了時の文部科学省の最終評価結果では「A」の評価を受け、「教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の要請が大いに推進された」との高い評価を得ている。
また、本事業は 2012 年度からの「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」、さらに 2017 年度から「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)』養成プラン」へと継承され、いずれも本学が上述の 4 大学と共同申請したプログラムが選定された(別掲)。

取組名称：北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム
■北海道医療大学の養成コース概要
北海道医療大学では、次のコース（コメディカル養成コース）を設け、がん専門医療人の養成を行う。
・がん専門薬剤師コース（養成受入人数：3 名）
大学院薬学研究科修士課程（医療薬学専攻）において、2008 年 4 月から受入開始した。
・がん専門看護師コース（養成受入人数：3 名）
大学院看護福祉学研究科修士課程（看護学専攻）において、2007 年 4 月から受け入れている。
また、がん専門薬剤師やがん専門看護師等を目指す方を対象に、次のインテンシブコースを設け、様々な研修や学習会等を開催する。
・コメディカルがん薬剤師コース
がん専門薬剤師を目指す薬剤師（社会人及び大学院生）を対象に、講義形式の研修や地域での専門医師、看護師等のインテンシブコースとの共同でチームカンファレンスを開催する。
・コメディカルがん看護師コース
研究会コースでは、ホスピスケア研究会札幌分科会をはじめ、関連研究会と連携し、講義、演習を実施する。事例検討会コースでは、道内各地でがん看護に関わる看護師を対象に事例検討と講義を組み合わせた学習会を開催する。また、専門医師コースと連携したチームカンファレンスを開催する。

■大学改革推進等補助金　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	計
12,206	21,733	21,872	22,216	21,719	99,746
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	500,000

※下段金額＝共同取組大学分を含む補助金申請額

②現代的教育ニーズ取組支援プログラム（他大学との共同申請）
大学等から申請された取組の中から、特に優れたプロジェクト（取組）を選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、これからの時代を担う優れた人材の養成を推進することを目的として実施されているものである。
なお、本取組は、文部科学省の大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として、2007 年度から 2009 年度までの 3 年間にわたり助成を受けた。
2010 年度からは、各大学の取組となり、本学は、全学教育科目「地域連携」の中で授業を展開している。

取組名称：双方向型医療コミュニケーション教育の展開
-多職種連携型「メディカルカフェ」の開設による地域医療の向上を目指して-
■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
8,799	11,000	11,000	30,799

③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（本学単独申請）
キャリアアップのために音楽療法を学びたい医療福祉従事者の方、何らかの理由で就業から離れていたが音楽療法を専門的に学び直したい方、専門的技能向上を目指している音楽療法士の三者を対象とした、音楽療法教育講座（「音楽療法基礎講座」、「音楽療法実践講座」「音楽療法実習講座」）を開設した。
なお、本取組は、2007 年度から 2009 年度までの 3 年間にわたり実施し、受講者はのべ 165 名、修了者は 137 名であった。

取組名称：全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座
■事業委託費　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
4,452	10,537	7,139	22,128

④⑤大学院教育改革支援プログラム（本学単独申請）
「大学院教育改革支援プログラム」は、「新時代の大学院教育」（2005 年 9 月 5 日中央教育審議会答申）、「大学院教育振興政策要綱」（2006 年 3 月 30 日文部科学省）等を踏まえ、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育取組に対して重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化を目的として実施されているもので、本学は、大学院心理科学研究科臨床心理学専攻および言語聴覚学専攻の両専攻が申請、選定され、文部科学省の大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として、2007 年度から 2009 年度までの 3 年間にわたり助成を受けた。

取組名称：臨床心理学専攻　-科学者実践モデルに基づく臨床心理学教育
■大学改革推進等補助金支給の状況　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
20,530	13,310	8,019	41,859

取組名称：言語聴覚学専攻　-言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院-医療技術系大学院の教育モデル-
■大学改革推進等補助金支給の状況　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
17,320	16,170	13,585	47,075

○2008 年度選定

①戦略的大学連携支援事業（他大学との共同申請）

本学と札幌医科大学・室蘭工業大学・小樽商科大学・千歳科学技術大学の 5 大学が共同で申請し選定された取組である。

「戦略的大学連携事業」は、国公私立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的として、文部科学省が 2008 年度から新規に開始した事業である。2008 年度は、「総合的連携型」59 件、「教育研究高度化型」35 件、計 94 件の申請が全国の国公私立大学からあり、本学は他大学との連携による 2 件の取組が選定された。

取組名称：北海道の地域医療の新展開を目指した異分野大学院連携教育プログラムによる人材育成

■取組概要

広大な医療圏を抱える北海道は、医療人の不足と偏在による地域医療崩壊の危機に立たされている。さらに、北海道全体の不況が重なることにより、地域の活力が失われつつある。

このような状況を打開するひとつの方策として本取組では、北海道の地域に密着した、医療系、工学系、情報系、経営系の国・公・私立の 5 大学が連携し、医療ないし保健福祉を中心とした地域活性化のための人材育成目指すものである。この連携により、それぞれの大学教育の特徴を融合した形の新しい教育体制を作り上げ、医療の基礎を有する技術者・経営者、情報・工学及び経営に精通した医療者、また地域ニーズに対応できる高度医療者を養成する。本取組により、地域の今日的課題を発見し、解決する能力を持つ、即戦力となる高度専門職業人が輩出されることが期待されている。

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2008 年度	2009 年度	2010 年度	計
5,000	6,000	5,830	16,830
73,000	72,640	65,268	210,908

※下段数字＝共同取組大学分を含む補助金申請額

②戦略的大学連携支援事業（他大学との共同申請）

本学と福岡歯科大学・九州歯科大学・岩手医科大学・昭和大学・神奈川歯科大学・鶴見大学・福岡大学の 8 大学が共同で申請し、選定された取組である。

取組名称：口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考

■取組概要

生命科学の急速な進歩、少子高齢化、社会構造の改善等は疾病構造の変化をもたらし、医療に対する国民のニーズが大きく変貌している状況下で、とりわけ超高齢社会では、人の健康に対して口腔が担う役割はこれまでになく大きく、口腔疾患と全身疾患との関連について十分な知識を持ち、口腔ケアを含む口腔疾患の予防・治療ができる医療人の育成が、医学及び歯学の両分野において急務となっている。本取組の最終的な目標は、社会ニーズから乖離しつつある現在の医療や医学・歯学教育体制を再考し、医学・歯学を統合した一体教育を実現することにある。その第一段階として全国規模の医歯学連携により、口腔医学の学問体系を確立し、医学・歯学の一体教育の実施に必要な教育環境の改善を図り、新しい医療人の育成及び教育体制の創設に共同して取り組むものである。

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2008 年度	2009 年度	2010 年度	計
8,976	10,979	3,797	23,752
77,000	85,000	69,400	231,400

※下段数字＝共同取組大学分を含む補助金申請額

③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（他大学との共同申請）

本学と日本赤十字北海道看護大学が共同で申請し、選定された取組である。

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」は、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006（2006 年 7 月 7 日閣議決定）」等を踏まえ、社会人の「学び直し」のニーズに対応するため、大学等における幅広い教育研究資源を活かした優れた学修プログラムを開発・実施することにより、学び直しに資する良質な教育プログラムの普及を図り、再チャレンジを可能とする柔軟で多様な社会の実現を目指すことを目的として実施されているものである。

取組名称：地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム

■取組概要

近年、臨床現場において、地域住民・当事者が治療における意思決定のため、疾患及び治療の理解を含めた医療情報リテラシーの向上が重要となってきている。

本事業は、地域格差のない医療情報を住民に提供するため、臨床現場で働く薬剤師・看護師が最新の情報を入手・提供できる能力育成を目的とした教育プログラムを提供するものである。対象は、現場に勤務する薬剤師・看護師とし、特に大都市圏から離れた遠隔地の医療機関の従事者に焦点を当てている。この教育プログラムでは、共通基礎プログラムにより、質の高い文献の入手方法、そしてそれらの情報をもとに患者教育の実践教育を行うことができる能力を培い、基礎共通プログラム修了者は専門分野を選択し、選択専門分野別の学習を行うものとなっている。また、効果的な授業のため、講義形式、ワークショップ、e-learning、ウェブカンファレンス形式等、多様な授業方式を採用し行われ、プログラム修了者には、修了証明書が与えられる。

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2008 年度	2009 年度	2010 年度	計
10,856	11,935	12,893	35,684
15,100	14,991	14,991	45,082

※下段数字＝共同取組大学分を含む補助金申請額

○2009 年度選定

①大学教育・学生支援推進事業　学生支援推進プログラム（本学単独申請）

「大学教育・学生支援推進事業　学生支援推進プログラム」では、"就職支援の強化など総合的な学生支援"をテーマとして、その趣旨・目的に沿った達成目標を明確にし、確実な計画の下に、組織的に大学等の学士力の確保・教育力の向上を図ろうとするもので、我が国の高等教育の質保証の強化に資する取組を募集の対象として公募され、大学の取組 296 件、短期大学の取組 84 件、高等専門学校の取組 1 件、複数学校の取組 19 件の取組が採択された中のひとつに選定されたものである。

■取組名称：「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援

■取組概要

入学する学生の多様化により、学習意欲や主体的な学びの姿勢・態度が希薄化していることから、入学早期からの支援、対策が必要となっている。

本学では、学生力を生かした大学運営の改善や教育力の向上を目的として、2008 年度から「学生キャンパス副学長（Student Campus President：以下「SCP」という。）」制度(4 学部 4 名の学生を委嘱)を導入し、様々な取組を開始している。本取組は、SCP からの助言や提言、また、SCP が在学生や卒業生を対象に実施する調査結果に基づくニーズを今後のキャリア形成支援・就職支援に反映させるもので、従来の大学からの一方的な指導から双方向型の支援体制を構築するものである。本取組により、社会に求められる豊かな人間性の涵養やコミュニケーション能力、課題探求能力等、学士力の向上を図るとともに、学生の自主的な活動の充実に向けた支援が可能となることが期待される。

■実施内容

1）キャリアデザイン講座

「自ら将来を切り開いていく力を身につける」ことを目的とし、専門職以外の多様な職業に就く学生が多い臨床福祉学科第 3 学年(在籍 62 名)、臨床心理学科第 2 学年(在籍 70 名)について、3 日間集中の課外講座として実施した。企業や教育関係の最前線で活躍されているキャリアデザイン専門の外部講師（研修トレーナー）を招聘し、20 名 1 クラスの少人数でのグループワークを中心に職業観の涵養・社会人基礎力の養成・職業適性検査による自己分析等を行った。

2）就職支援システム

新たなデータベースを導入した。2011 年度以降は、さらに学生の活用度を高めるために、検索性等の内容をカスタマイズしていく。

3）就職データベースを含む就職 Web サイトのコンテンツ等

学生に活用され役立つものとするために、SCP から要望についてヒアリングを行い、専門の Web ページを作成した。

4）受講者アンケート

キャリアデザイン講座において実施し、その効果を測定した。

5）2011 年度活動報告

本プログラムの 2011 年度活動内容については、就職委員会・学科会議において報告を行った。また、本学ホームページ上で取組の概要についてのページを作成した。

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2009 年度	2010 年度	2011 年度	計
11,000	9,500	9,177	29,677

○2012 年度選定

①がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（他大学との共同申請）

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」は、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための拠点を構築することを目的として、文部科学省が大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として実施するもので、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上の推進を図るものである。

本学は、本事業の前身である旧「がんプロフェッショナル養成プラン」から引き続き、札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学の 4 大学との共同により「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム　-地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進-」を申請し選定された。

■取組名称：北海道がん医療を担う医療人養成プログラム　―地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進―

北海道医療大学の教育コース概要

1）がん看護コース（緩和ケアリソースナース養成プログラム）

①教育の目的：がん患者・家族が住み慣れた地域で安心して療養できるよう、ケアとキュアを統合した緩和ケアサービスが提供できるとともに、緩和ケアサービスを効果的にマネジメントし、地域において緩和ケアに携わる保健医療職などを支援するリソースナースとして活躍できる人材の養成。

②教育内容の特色：

・ケアとキュアを統合した高度な看護実践力養成のために、臨床判断力と実践力を強化したカリキュラムの展開

・地域における緩和ケアサービスのマネジメント力、およびリソースナースとしての能力開発・実践力養成のため多職種参加のもとでの課題設定による演習や実習

・学外のがん看護に携わる看護師も参加した事例検討と講義を組み合わせた学習会の開催

③養成（受入）予定人数：3名

2）地域がん医療薬剤師コース（インテンシブコース）

①教育の目的：先進的がん化学療法や患者ケアに関わる高度な専門知識と臨床能力を持ち、他の薬剤師に対し指導的役割を担うとともに、地域におけるがん医療の推進について、他の医療スタッフと協働して実践することのできるリーダー的薬剤師の養成。

②教育内容の特色：

・北海道内のがん拠点病院等の薬剤師や職能団体等との連携により、がん医療におけるレジメン管理など具体的事例、課題に関するセミナー、ワークショップにより、広く情報の共有を図る実践的なプログラムの展開。

・がんターミナルケアなど、今後増大する地域の在宅ケアにかかわるニーズに対応するため、これまで対象となることが少なかった保険薬局薬剤師を対象とした地域ニーズに即したプログラムを展開。

③養成（受入）予定人数：各回30名

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	計
16, 955 135, 000	16, 955 135, 000	15, 938 126, 900	14, 073 112, 051	12, 786 101, 798	76, 707 610, 749

【参考】下段数字は、共同取組大学分を含む補助金申請額である。

②大学間連携共同教育推進事業

■取組名称 :IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

■取組概要

本取組は超高齢社会の到来に対応できる全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成するために、連携体制をとってきた3大学と地域医療教育を担当する周辺歯科医師会が協働するものである。IT を活用した歯学教育プログラムを構築して、①臨床推論能力,②コミュニケーション能力,③自己評価能力を養成するものである。これらの臨床能力を総合的に身につけるために、まず基礎的な力を e-learning で身につけ、臨床推論能力、コミュニケーション能力を仮想患者教育システム(VP)で養成し、さらに臨床における自己評価能力を電子ポートフォリオで養うのが特徴である。IT を活用するので、いつでも多施設で教育とその結果を共有することができ、ステークホルダーである歯科医師会も学生の成績と臨床能力(コンピテンシー)を比較検討し、歯学教育に対して具体的な提言をすることができることが特徴である。

■連携大学

北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学(代表校)

■連携機関

北海道歯科医師会、札幌歯科医師会、岩手県歯科医師会、盛岡市歯科医師会、東京都大田区蒲田歯科医師会、東京都大田区大森歯科医師会、東京都目黒区歯科医師会、東京都荏原歯科医師会、東京都品川歯科医師会

■事業期間

2012 年度から 2016 年度(5年間)

■大学改革推進等補助金受給の状況 （千円）

2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	計
2,662	1,528	1,511	2,311	1,439	9,451
37,255	15,901	15,901	16,068	11,755	96,880

【参考】下段数字＝共同取組大学分を含む補助額

〇2017 年度選定

①多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（他大学との共同申請）

「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）』養成プラン」は、複数の大学間の連携による「がん専門医療人材養成拠点」において、それぞれの大学の特色を活かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」を養成することで、わが国におけるがん医療の一層の推進を図ることを目的としている。

本学は、本事業の前身である「がんプロフェッショナル養成プラン」（第 1 期）、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」（第 2 期）から引き続き、今期（第 3 期）も札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学の 4 大学との共同により「人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン」を申請し選定された。

■取組名称：人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン ―多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材の養成―

■取組概要

北海道医療大学の教育コースの概要

１）がん看護コース（緩和ケアアウトリーチナース養成プログラム）

①教育の目的：

あらゆるライフステージにあるがんサバイバーとその家族が、質の高い在宅医療を受けられるよう、生活の場に積極的に入り込んで生活ニーズに即した緩和ケアを提供するとともに、地域包括ケアを担う保健医療職に対し、緩和ケアの実践力の向上を目指したアウトリーチ活動を行う人材の養成。

②教育内容の特色：

・在宅看護、老年看護の知識とスキルを有したがん看護実践力を養成するため、本研究科のリソースを活用して、在宅看護、老年看護および福祉・介護領域の大学院生とともに学習する教育プログラム。

・本学の地域包括ケアセンターを活用し、その地域に積極的に入り込むことによって地域特性や住民の健康ニーズなど包括的な視野で緩和ケアシステムを構築するための教育プログラム。

・本養成プログラムの一環として、北海道専門看護師の会との協働のがん診療拠点病院での家族のサポートグループの実施、インターネットサバイバーピアサポートの構築などに取り組むことによる、がん専門看護師のアウトリーチ活動のモデル構築。

③養成（受入）予定人数：３名（各年度）

２）地域がん医療連携の推進を担う薬剤師養成コース（インテンシブコース）

①教育の目的：

地域におけるがん医療において、先進的がん薬物療法とライフステージに応じた患者ケアに関わる高度な専門知識と臨床能力を持ち、がんチーム医療に貢献し、他の薬剤師に対し指導的役割を担うとともに、地域におけるがん医療の推進について、他の医療スタッフと協働して実践することのできる専門性の高い薬剤師の養成。

②教育内容の特色：

・北海道内のがん拠点病院等の薬剤師や職能団体等との連携により、がん先進医療における具体的な事例、課題あるいはレジメン管理に関するセミナー、ワークショップにより、広く情報の共有を図る実践的なプログラムの展開。

・今後ますます増大する地域の在宅ケアにかかわるニーズに対応するため、がんターミナルケア、種々の合併症に関するケア、認知症などの精神科領域に関する総合的ケアなど、地域ニーズに即した総合的なプログラムの展開。

・在宅におけるがん治療の一般化に伴い、がん患者とその家族が安心して治療に取り組むことのできるよう、がん薬物療法の副作用や抗がん剤のなどの薬剤に関する正しい知識を学ぶことができるプログラムの展開。

・がん薬物療法における薬剤師の役割を病院および在宅の両面から互いに学ぶことのできるプログラムの展開。

③養成（受入）予定人数：１５０名（各年度）

■研究拠点形成費等補助金受給の状況 （千円）

2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	計
16, 523	12, 881	10, 937	11, 044	4, 293	55, 678
131, 900	101, 818	86, 869	86, 694	33, 939	441, 220

【参考】下段数字は、共同取組大学分を含む補助金申請額である。
2020 年度以降の金額は見込み額である。

（2）教員研究業績

各教員の研究業績は、2007年度から実施した教員評価制度において、教育、管理運営、診療、社会活動等とともに主たる評価項目として位置付けている。各教員は、自らの研究活動の実績について、主たる研究テーマ、研究活動の現状、公表された業績の取纏め（原著、著書、その他論文・報告書等による区分）、学会活動状況、各種研究助成・補助金受領状況等について報告し、評価を受ける。また、2007年度に研究業績のデータベース化を行い、学外に情報公表を行っている。

①研究業績一覧

			薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	予防医療科学ｾﾝﾀｰ	健康科学研究所	総計
			2018	2018	2018	2018	2018	2018	2018	2018
著書	単著		0	0	6	0	0	1	0	7
	共著		8	17	6	1	9	3	0	44
	合計		8	17	12	1	9	4	0	51
訳書	単著		1	0	0	0	0	0	0	1
	共著		0	6	0	2	0	1	0	9
	合計		1	6	0	2	0	1	0	10
学術論文	原著	筆頭	22	30	12	8	23	1	0	96
		共著	39	96	10	7	25	17	7	201
	その他論文	筆頭	7	12	15	1	0	0	0	35
		共著	6	2	5	2	5	0	0	20
	総説	筆頭	4	8	0	4	6	5	0	27
		共著	0	11	0	0	2	8	0	21
	症例報告紀要等	筆頭	3	6	10	1	1	2	0	23
		共著	1	19	8	0	0	3	0	31
	合計	筆頭	36	56	37	14	30	8	0	181
		共著	46	128	23	9	32	28	7	273
論文総数			91	207	72	26	71	41	7	515
学会発表（招待）	招待講演	国際	1	13	3	0	2	4	0	23
		国内	8	15	7	3	7	11	0	51
	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ ﾊﾟﾈﾘｽﾄ	国際	0	6	0	0	2	0	0	8
		国内	8	12	12	6	15	0	0	53
	合計	国際	1	19	3	0	4	4	0	31
		国内	16	27	19	9	22	11	0	104
学会発表（一般講演）	国際	演者	7	16	2	3	6	1	1	39
		共同演者	18	80	4	2	10	17	3	157
	国内	演者	36	53	19	6	24	1	0	70
		共同演者	135	292	24	22	58	27	7	261
	学内	演者	4	6	3	0	0	1	0	109
		共同演者	12	68	3	0	2	1	0	86
	合計	演者	47	75	24	9	30	3	1	218
		共同演者	165	440	31	24	70	45	10	504

②平均論文数

学部等		薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	予防医療科学ｾﾝﾀｰ	健康科学研究所	総計
2018年度	論文総数	91	207	72	26	71	41	7	515
	1人当たり平均	1.5	2.2	1.2	1.5	1.5	5.9	3.5	1.8

③投稿論文掲載料補助

（千円）

	薬学部		歯学部		看護福祉学部		心理科学部		リハビリテーション科学部		医療技術学部		予防医療科学ｾﾝﾀｰ		健康科学研究所		総計	
	件数	補助額	件数	補助額	件数	補助額	件数	補助額	件数	補助額	件数	補助額	件数	補助額	件数	補助額	件数	補助額
2017年度	11	475	19	729	0	0	0	0	0	0	－	－	0	0	0	0	30	1,204
2018年度	12	513	12	517	0	0	0	0	5	193	－	－	0	0	0	0	29	1,223
2019年度	4	200	23	1,084	0	0	0	0	3	110	0	0	0	0	0	0	30	1,394

（3）海外研究員

海外の大学・研究所、その他大学に準ずる機関において、一定期間継続して学問専攻分野等の研究および教育一般に関する研究調査等に従事する「海外研究員」の制度がある。

学部	職位	氏　名	期　間	派遣研究機関
歯学部	助教	植原　治	2019.4.1 － 2020.3.31	The　university of British Columbia(カナダ)

（4）科学研究費・各種外部資金

科学研究費補助金は、人文・社会科学から自然科学まであらゆる分野における優れた学術研究をさらに発展させることを目的として、文部科学省及び日本学術振興会から交付される全額補助である。研究者にとっては研究活動の充実と継続のため、また、若手研究者の育成・奨励の観点からも貴重な外部資金であり、その獲得は本学全体の研究活動のレベルを高めるために極めて重要である。なお、執行に関しては学内で説明会、内部監査等を行い、透明性と健全性の確保に努めている。

【科学研究費】

＜2019年度交付決定状況（件数） 新規・継続＞

学部等	研究種目	特別推進研究	新学術領域研究	基盤研究S	基盤研究A 一般	基盤研究A 海外学術調査	基盤研究B 一般	基盤研究B 海外学術調査	基盤研究B 特設分野研究	基盤研究C 一般	基盤研究C 海外学術調査	基盤研究C 特設分野研究	若手研究	挑戦的萌芽研究	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	国際共同研究加速基金	合計
薬学部	新規申請		2							19		1	7	2	2			33
	新規採択									6			1		1			8
	継続									6			3					9
	交付額									16,250			5,200		1,430			22,880
歯学部	新規申請						3			46			18	5	3			75
	新規採択									12			3		2			17
	継続		1				2			16			8		1			28
	交付額		4,420				9,360			40,560			19,240		3,770			77,350
看護福祉学部	新規申請				1		1			13			5	2	1			23
	新規採択									4			3		1			8
	継続						1			3			1					5
	交付額						5,590			10,400			6,240		780			23,010
心理科学部	新規申請									3			2					5
	新規採択									1			1			1		3
	継続									4			1					5
	交付額									5,590			1,820			900		8,310
リハビリテーション科学部	新規申請						1			10			4	1				16
	新規採択									4			1	1				6
	継続									2			4					6
	交付額									12,350			4,550	3,120				20,020
医療技術学部	新規申請									4			2					6
	新規採択									2								2
	継続																	0
	交付額									2,470								2,470
健康科学研究所	新規申請		1							1								2
	新規採択																	0
	継続												1					1
	交付額												780					780
予防医療科学センター	新規申請									1								1
	新規採択									1								1
	継続									2			1					3
	交付額									3,900			1,560					5,460
がん予防研究所	新規申請						1											1
	新規採択																	0
	継続									2								2
	交付額									2,080								2,080
合計	新規申請	0	3	0	1	0	6	0	0	97	0	1	38	10	6	0	0	162
	新規採択	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	9	1	4	1	0	45
	継続	0	1	0	0	0	3	0	0	35	0	0	19	0	1	0	0	59
	交付額	0	4,420	0	0	0	14,950	0	0	93,600	0	0	39,390	3,120	5,980	900	0	162,360

*2020年3月31日基準

＊間接経費含む

＜推移＞

表1（応募・採択状況）

	新規				交付対象課題数			
	応募数	採択課題数	採択率本学	採択率全国	新規	継続	うち、転入課題	新規+継続
2018年度	139	32	23.0	―	32	58	2	90
2019年度	156	39	25.0	―	39	58	2	97
2020年度	148	43	29.1	―	43	71	3	114

＊各年度5月1日現在の集計による数値

表2（直接経費）

金額単位：千円

	新規		継続		新規＋継続		転入（+）		交付（合計）	
	交付請求数	交付額*	交付請求数	交付額	交付請求額（合計）	交付額（合計）	件数	受入額	件数	交付額
2018年度	32	52,180	58	49,140	90	101,320	2	1,820	92	103,140
2019年度	39	47,138	58	59,052	97	106,190	1	1,430	98	107,620
2020年度	43	47,047	71	63,539	114	110,586	3	2,800	117	113,386

＊各年度5月1日現在の集計による数値で、額は交付請求による見込額。

表3（間接経費）

	金額	間接経費措置種目
2018年度	44,202	基盤研究（B・C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（B）、新学術領域研究、特別研究員奨励費の一部
2019年度	45,510	基盤研究（B・C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（B）、新学術領域研究
2020年度	47,164	基盤研究（B・C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（B）、新学術領域研究

＊各年度5月1日現在の集計による数値で、額は交付請求による額。

図1

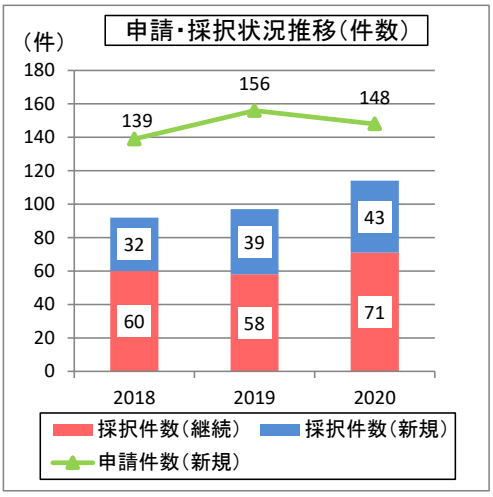
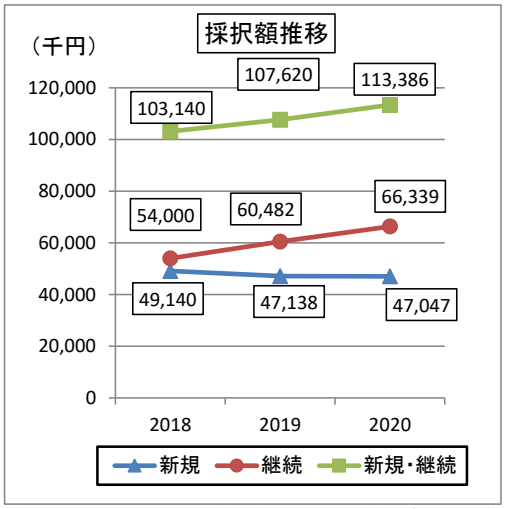


図2



＊表1及び図1の申請数は前年11月の申請数。新規採択数、継続内定数、採択率はすべて4月の交付内定時のもの（交付内定時の転入出調整を含む）

＊表2、表3について、転入・転出・辞退等を調整済み。ただし、他研究機関への分担金の移転分は反映していない。

【科学研究費・詳細】

種目	部局	研究代表者		研究課題名
基盤研究(B)	歯	教授	斎藤　隆史	象牙質再石灰化・再生技術が拓く次世代齲蝕予防・治療法確立への展開研究
	看	教授	山田　律子	認知症高齢者の摂食嚥下障害に対する原因疾患別予防プログラムの多職種共同開発
	歯	教授	志茂　剛	癌骨破壊病変のHedgehogシグナルを起点とした癌代謝・癌免疫制御機構の解明
基盤研究(C)	リ	教授	近藤　里美	Communicative Musicalityを活用した重度認知症ケアの創出
	心	講師	真島　理恵	信頼関係形成方略の社会差についての理論的・実証的研究
	心	教授	冨家　直明	認知行動的栄養教育プログラムの開発とその評価
	心	講師	西郷　達雄	下痢型IBSを対象とした暴露療法：消化管症状に対する不安条件付けの消去
	心	教授	百々　尚美	社交不安障害患者のための視線を標的としたエクスポージャープログラムの開発
	歯	准教授	大村　一将	直接経口抗凝固薬療法時における出血および血栓リスクの指標作成に関する研究
	薬	助教	大島　伸宏	Theranosticsの精度と内照射療法時の安全性を向上する放射性薬剤の開発
	歯	教授	伊藤　修一	多機能性を有する修復材料の開発
	歯	教授	入江　一元	フェイトマッピングによる象牙芽細胞分化因子の解明と象牙質再生療法への応用
	歯	教授	照光　真	三叉神経神経障害性疼痛の中枢性感作-infra-slowオシレーションの変調-
	歯	講師	倉重　圭史	エナメル質石灰化転写制御因子の同定
	歯	講師	六車　武史	高密着性、高柔軟性を有する高水素含有DLC成膜へのプラズマを用いた抗菌機能の付与
	看	講師	神田　直樹	医療過疎地域に隣接する地方中核病院の救急看護師に対する広域連携支援モデルの構築
	薬	講師	木村　治	頭髪成分を用いた高齢者の長期栄養状態の評価について
	歯	准教授	松岡　紘史	舌痛症の症状満足度に焦点を当てた認知行動療法プログラムの開発
	薬	准教授	堀内　正隆	人工マルチドメイン酵素固定化シートを用いた低コストなアゾ染料分解法の研究
	薬	准教授	北浦　廣剛	細胞周期制御因子CDK2を標的とした放射性プローブの開発
	歯	教授	石井　久淑	咀嚼時の副交感性脳血流増加による大脳皮質機能維持と脳虚血疾患の病態改善機構の解明
	歯	准教授	根津　顕弘	生体イメージングと網羅的遺伝子解析による唾液腺の代償性肥大機序と分子基盤の解明
	歯	教授	安彦　善裕	口腔内病原菌内毒素による海馬のエピジェネティック修飾の網羅的検索
	歯	講師	松田　康裕	ZnO/CuOナノコンポジットを基盤とした新規多機能材料の開発
	歯	教授	會田　英紀	光機能化テクノロジーの広範囲顎骨支持型顎顔面補綴装置への応用に関する基礎的研究
	歯	教授	永易　裕樹	噛みタバコによる口腔ガンの予防に向けた発がん機構メカニズムの解明
	歯	教授	齊藤　正人	エナメル質再石灰化を誘導するアメロジェニン活性領域の同定
	歯	教授	長澤　敏行	歯周炎によるAgonistic autoantibodyがもたらす高血圧症の解明
	歯	助教	藤田　真理	口腔細菌によるベーチェット病の発症要因の探索－メタゲノム解析を用いて－
	歯	准教授	木浪　智佳子	重症心身障害児者と援助者間に相互作用をもたらす食事援助プログラムの開発
	薬	准教授	佐藤　浩輔	RNA高次構造を検出可能な超効率的RNA検出プローブの開発
	がん	教授	藏満　保宏	癌の悪性化におけるGLO1の役割の解明
	薬	教授	岡崎　克則	地方病性牛白血病制御のための開発研究～予後診断法の改良とワクチン開発～
	リ	教授	下村　敦司	オーディトリーニューロパチーに対する再生治療の実現を指向した聴神経分化機構の解明
	看	教授	竹生　礼子	地域特性に合わせた在宅がん療養者の住民参加型生活支援システムの活用と評価
	心	講師	松本　由起子	近代的家族像の歴史研究としての20世紀前半における英国精神分析の動向
	看	講師	池森　康裕	地域包括ケアシステムの新機軸を目指した共生型福祉サービスの効果の解明
	看	教授	塚本　容子	異分野連携を通じたイノベーティブな人材育成
	薬	教授	二瓶　裕之	クラウドを活用してピアレビュー分析にまで学生が関わるプロセスを取り入れた協働学修
	リ	准教授	橋本　竜作	DCD児に対する視覚的バイオフィードバックをもちいた漸進的筋弛緩訓練法の構築
	薬	教授	中川　宏治	核内転写制御因子PIAS1によるがん細胞の悪性化機構の解明
	薬	准教授	高上馬　希重	薬用植物カンゾウにおける形質転換培養細胞によるテルペノイド化合物の生成研究
	薬	教授	柴山　良彦	脂質生合成調節因子MLXIPLに作用するマイクロRNAに関する研究
	歯	教授	高橋　伸彦	臓器特異的な糖代謝異常を反映する分泌小胞内蛋白質の探索と体液診断への応用
	予	准教授	河野　豊	大腸癌のBH3プロファイリングによる抗がん剤耐性機序の解明及び新規治療法の開発
	医	講師	江本　美穂	老化による酸化ストレスリスクファクターのEPRイメージング法による画像化研究
	薬	教授	泉　剛	うつ病における扁桃体の役割 -動物実験による解明-
	医	教授	松尾　淳司	クラミジア感染による宿主DNA損傷の修復制御が炎症誘導に果たす役割
	予	教授	北市　伸義	ベーチェット病発症原因としての口腔内細菌と疾患関連遺伝子の検討
	歯	講師	加藤　幸紀	母親と新生児のメタゲノム解析を用いた健全な消化管細菌叢形成のための歯周治療戦略

	歯	教授	細矢　明宏	蛍光標識した歯根膜幹細胞による骨芽細胞分化誘導法の確立
	歯	准教授	根津　尚史	温度トリガーで疎水性/親水性が可逆変化する新規レジンの創製と歯科医用材料への展開
	歯	教授	舞田　健夫	光機能化は骨吸収抑制剤長期投与モデルにおいてインプラント体の骨結合を改善するか？
	歯	講師	川西　克弥	口腔機能低下が脳神経活動に及ぼす影響～脳機能イメージング法での検証～
	歯	教授	中山　英二	唾液腺内視鏡下唾石破砕術とタンパク質とカルシウムの二重溶解併用療法開発の基礎研究
	歯	助教	大桶　華子	脳波の感性フラクタル解析による歯科患者の不快感の定量評価と鎮静深度モニタへの応用
	歯	教授	奥村　一彦	RNA編集酵素を標的とした癌幹細胞の自己複製制御による新しい口腔癌治療の開発
	歯	講師	岡山　三紀	歯周組織におけるリゾリン脂質シグナルと歯根吸収メカニズムの解析
	リ	講師	西出　真也	蛍光イメージングを利用した小児の歯髄炎の概日リズム判定
	歯	教授	飯嶋　雅弘	ナノ粒子による生体疑似環境下でのエナメル様構造の材料工学的な形成と抗菌性の獲得
	歯	准教授	広瀬　弥奈	口腔から分離されるブドウ球菌の分子疫学的解析と新規市中感染型MRSAの蔓延状況
	薬	教授	小島　弘幸	マイクロプラスチック由来化学物質の核内受容体を介した制御性T細胞応答への影響
	看	准教授	明野　伸次	EBNにもとづく看護技術における「熟練した手の使い方」の可視化と学習システム開発
	看	教授	工藤　禎子	地域住民の共助による高齢者の減災をめざした介入と評価
	リ	講師	柳田　早織	発声障害に対するバイオフィードバック療法の有用性の検討
	リ	助教	飯泉　智子	非侵襲的口腔咽頭機能評価法を用いた摂食嚥下障害の治療効果の検証
	が	客員教授	服部　裕一	敗血症性播種性血管内凝固(DIC)の分子病態解明に基づいた予防法・治療法の創出
若手研究	心	助教	関口　真有	糖尿病患者に対する問題解決療法プログラムの作成と効果検証
	薬	助教	佐々木　隆浩	ナノ粒子への精密位置制御分子修飾による細胞内サンプルリターン材料の開発
	薬	助教	下山　哲哉	患者の嗜好に配慮した易服用性経口ゲル化液剤の設計
	歯	助教	山田　梓	間葉系幹細胞の骨芽細胞分化に関与するmicroRNAの機能の解明
	歯	助教	清水　伸太郎	GPR141の機能と歯周病への遺伝的リスクの解析
	健	助教	高井　理衣	DNAメチル化を介したプロポリスの歯周病予防効果
	歯	助教	建部　廣明	ポリコーム群タンパク質Bmi1による骨芽細胞分化促進メカニズムの解明と歯槽骨再生
	歯	助教	吉田　光希	細胞シート工学にエピジェネティクスを応用した口腔外歯周組織再生ユニットの開発
	歯	助教	植原　治	歯周病原細菌由来内毒素による自己免疫性ぶどう膜炎発症メカニズムの解明
	看	助教	吉岡　真由	認知症原因疾患をふまえた認知症高齢者の自発摂食評価表の信頼性・妥当性の検証
	リ	助教	大内　みふか	脳血管障害発症後尿失禁を有する男性に対する骨盤底筋トレーニングの有効性の検討
	リ	助教	井上　恒志郎	ストレス脆弱動物におけるストレスの少ない運動条件とその神経基盤の解明
	予	講師	斎藤　晶理	心筋炎におけるナチュラルキラーT細胞の役割の解明
	歯	助教	竹田　洋輔	口腔リハビリテーションによる行動障害に対する補償機構の分子生物学的解明
	心	准教授	森元　良太	統計的仮説検定の歴史的源流と哲学的意義に関する研究
	看	講師	松本　望	サービス付き高齢者向け住宅の虐待に関する基礎的研究
	看	准教授	櫻井　潤	地域の医療ニーズに即した医療扶助システムの構築に向けた医療保障政策の実証的研究
	心	助教	西牧　可織	障がい対応を多様な背景を持つ全ての学生への学修支援へと発展させるシステムの開発
	薬	講師	鹿内　浩樹	うつ病における前頭前野テロメア短縮の病態生理学的意義の解明
	歯	准教授	門　貴司	インプラント周囲炎に罹患したチタン表面の除染法とFGF-2による骨再生の検討
	歯	助教	菅　悠希	マウスにおける咀嚼動態の相違が包括的な糖代謝系に与える影響
	歯	助教	中尾　友也	顎関節症における関節円板のコラーゲン発現機構の解明
	看	助教	横川　亜希子	ポケットエコーを用いた認知症高齢者の便秘ケアアルゴリズムの開発
若手研究(B)	薬	講師	阿部　匠	エージング金属錯体の新規反応性開拓研究
	リ	助教	児玉　壮志	抑うつのメンタルヘルスリテラシーと援助要請に関する構造方程式モデリングによる検討
	リ	准教授	宮崎　充功	血中分泌型microRNAによる癌性カケキシアの発症と細胞間コミュニケーション
	歯	講師	佐藤　惇	エピジェネティクス修飾を応用した3次元的歯胚形成能の検討
	歯	助教	村田　佳織	歯の発生における上皮間葉相互作用でのCa2+応答の役割とエナメル芽細胞の分化
挑戦的研究(萌芽)	リ	准教授	榊原　健一	日本における民俗音楽歌唱の生理学的研究
新学術領域研究	歯	教授	谷村　明彦	蛍光リガンド・受容体一体型センサーによる細胞間コミュニケーションの解析
研究スタート支援	歯	助教	原田　文也	歯周病原細菌による腎臓への網羅的エピジェネティクス解析-基礎疾患の予防に向けて-
	薬	講師	水野　夏実	マクロファージにおける Tofacitinib の新規作用機構の解明
	歯	助教	森川　哲朗	歯周炎による血液脳関門障害遺伝子の解析およびアルツハイマー病への影響
	歯	特別研究員	邱　友靖	The in vitro/in vivo study of CCN2 on dentin regeneration
	看	助教	嶋田　あゆみ	NICUにおける看護職のための母乳育児支援ラダー試案の作成

【特別研究員奨励費】

	日本学術振興会 特別研究員新規応募				日本学術振興会 特別研究員新規採用				特別研究員 奨励費申請		特別研究員 奨励費採択		採択金額 (千円)	備考
	PD	DC1	DC2	海外	PD	DC1	DC2	海外	新規	継続	新規	継続		
2018年度	1	2	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1,000	*間接経費 DCなし
2019年度	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	900	*間接経費 DCなし
2020年度	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	−	*間接経費 DCなし

【各種外部資金】

外部資金の導入は、本学の学術研究の推進や社会への研究成果の還元の意味からも重要な課題である。
各種の外部資金・学外補助金・民間助成等の公募の学内周知を励行し、申請数の増大に努めている。

＜学外研究資金＞　（千円）

団体名	種類	学部	2018年度			2019年度		
			申請	採択	金額	申請	採択	金額
日本私立学校振興・共済事業団	学術研究振興資金	薬	−	−	−	−	−	−
		歯	1	−	0	−	−	−
	学術研究振興資金(若手)	薬	−	−	−	−	−	−
合計			1	0	0	−	−	−

＜学外補助金･助成金＞

（千円）

団体名	種類	学部	2018年度			2019年度		
			申請	採択	金額	申請	採択	金額
国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)	医療機器開発推進研究事業 （分担者）	看	2	2	980	0	0	0
	感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	医	1	1	600	1	1	600
	新規医療技術の持続的創出を実弁する オープンアクセス型拠点形成	歯	0	0	0	1	1	3,800
北海道科学技術振興総合 センター(ノーステック財団)	事業化支援補助金	歯	1	0	0	1	0	0
	スタートアップ研究補助金	薬	1	0	0	0	0	0
		歯	0	0	0	1	0	0
	ノースタレント補助金	薬	4	0	0	1	0	0
		歯	0	0	0	0	0	0
		リ	1	0	0	0	0	0
	札幌タレント補助金	薬	1	0	0	0	0	0
		歯	1	0	0	1	1	400
		リ	1	0	0	0	0	0
	医療機関ニーズ対応型開発補助金	歯	0	0	0	1	1	430
国立研究開発法人 科学技術振興機構	研究成果展開事業	薬	1	1	5,200	1	1	5,200
国立研究開発法人 農業･食品産業技術総合研究機構	革新的技術開発･緊急展開事業 （分担者）	薬	1	1	4,000	1	1	3,800
国立研究開発法人　新エネルギー･産業技術総合開発機構	「植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発」事業（分担者）	薬	1	1	4,316	1	1	2,160
厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患等克服研究事業 （分担者）	歯	1	1	500	1	1	500
		リ	1	1	0	1	1	0
総務省	戦略的情報通信研究開発推進事業	リ	0	0	0	1	1	1,721
合計			18	8	15,596	12	9	18,611

＜民間助成＞

民間助成	学部	2018年度			2019年度		
		申請	採択	金額	申請	採択	金額
公益財団法人秋山記念生命科学振興財団 公益財団法人伊藤医薬学術交流財団 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団 公益財団法人先進医薬研究振興財団 公益財団法人武田科学振興財団 他	薬	24	1	50	22	2	1,500
	歯	9	3	390	13	2	600
	看	6	3	100	8	3	1,490
	心	0	0	0	1	0	0
	リ	2	1	750	6	1	500
	医	1	0	0	3	1	2,000
（2018年度申請実績）	予防セ	1	0	0	1	1	290
合計		43	8	1,290	54	10	6,380

＜共同研究･受託研究･治験研究･奨学寄附金＞

種別	学部	2018年度		2019年度	
		実績	金額	実績	金額
共同研究費（入金実績）	薬	2	1,300	1	500
	歯	7	7,904	5	7,599
	医	2	7,560	2	10,260
	予	2	5,400	1	1,080
受託研究費（入金実績）	薬	0	0	1	2,310
	歯	2	1,000	3	1,850
	看	1	500	0	0
	予	2	500	0	0
治験研究	予	5	173	0	0
奨学寄附金（研究）	薬	5	14,750	2	2,000
	歯	15	8,640	20	10,700
	リ	0	0	1	200
	医	0	0	1	2,000
	がん	0	0	2	608
	予	4	1,600	2	490
合計		47	49,327	41	39,597

（5）科研費説明会･研究者倫理

･科研費研修会

公的研究費を受給して研究活動を行うにあたり、コンプライアンスを遵守し適切に経費を執行･管理することが求められるため、研究者および事務職員を対象とする科研費説明会･研修会を定期的に開催している。2019年度は7月31日に当別キャンパスで、8月1日に札幌あいの里キャンパスで科研費研修会を開催した。

･研究者倫理

2014年2月の文部科学省「研究機関における公的研究費の管理･監査のガイドライン(実施基準)」改正をふまえ、本学コンプライアンス委員会において「公的研究費等の不正使用等に関する防止計画」の見直しを行い、コンプライアンス教育の強化と徹底等を図ることとなった。2016年度からは、全ての研究者と科研費に携わる職員を対象に、研究倫理教育として日本学術振興会の「科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一」をe-learningにより実施した。また、コンプライアンス教育についても同様に実施している。

（6）教員評価

教員評価は、大学、専門学校の専任教育職員の諸活動を点検、評価し、その水準を向上させるために 2007 年度より実施している。評価分野は、教育、研究、社会貢献、管理運営及び臨床の 5 分野で 10 の部局単位で実施している。評価結果は、各部局長から各教員へフィードバックし、指導・助言・賞与への反映等に活用している。

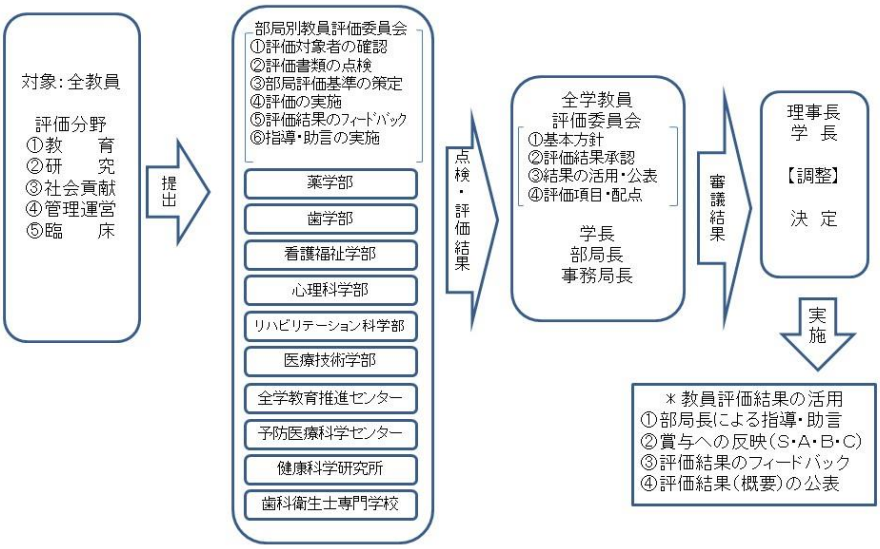
2019 年度教員評価結果

［1］ 評価対象者：2018 年 4 月 1 日から引き続き在籍する専任の教育職員 286 名
※2018 年度に海外及び国内研究員として派遣された者を除く
※2018 年度の退職者（特任教員を含む）を除く

［2］ 評価対象年度：2018 年度（2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

［3］ 教員評価の概要：以下のとおり

北海道医療大学「教員評価」の概要



※健康科学研究所は 2020. 4. 1 より先端研究推進センターに改名

［4］ 教員評価結果一覧

評価/職位	教授	准教授	講師	助教	専任教員	総数
S：極めて優れている	0	2	0	1	0	3
A：優れている	0	4	3	4	0	11
B：標準である	81	48	69	71	3	272
C：努力を要する	0	0	0	0	0	0
総数	81	54	72	76	3	286

［5］ 教員評価結果の活用

① 賞与への反映

評価区分	12 月賞与への反映内容
S：極めて優れている	勤勉手当 0.2 月分加算する
A：優れている	勤勉手当 0.1 月分加算する
B：標準である	所定の支給率
C：努力を要する	勤勉手当 0.1 月分減じる

② 評価結果のフィードバック
各部局長から各教員へ評価結果をフィードバックする。

③ 指導及び助言
各部局長は、C評価の教員へ指導・助言を行う。

［6］ 教員評価結果の公表

① 教員評価結果については、学外公開用ホームページで公表する。

② A評価以上の者は、氏名を公表する。

4. 附属の教育・研究組織

（1）北海道医療大学病院、歯科クリニック

本学の附属医療機関は 1978 年 10 月に「歯学部附属病院(当別キャンパス)」、1990 年 10 月に「医科歯科クリニック(札幌あいの里キャンパス)」が開設され、病院整備拡充計画に基づき 2005 年 7 月に「北海道医療大学病院（札幌あいの里キャンパス）」ならびに「歯科内科クリニック（当別キャンパス）」に再編することとなった。

北海道医療大学病院は、歯学部附属病院の機能と役割を継承しつつ、手術室と歯科部門を整備・拡充し、医療心理室、言語聴覚治療室、医療相談・地域連携室を設けた。また、2015 年 5 月にはリハビリテーション室を開設するとともに歯科診療エリアを拡張する改修工事を行ない、2017 年 5 月に病棟設備を見直した。

2016 年 2 月開設の訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所と連携し、2018 年 4 月からは、より高度な医療を提供すべく専門医の配置を充実させて地域の多様なニーズに応えながら、各学部および研究科学生の臨床実習教育あるいは教員の研究活動の場としての機能を強化している。

① 北海道医療大学病院、歯科クリニックの「理念と行動目標」

理念
本学の教育理念に則り、生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を目指し、先進的な医療の提供と医学・歯学の発展に寄与し、高度で安全な地域医療を実践することによって地域社会に貢献することを本院の理念とする。
行動目標
1. 生命倫理に基づく患者様中心の良質な医療を実施する。 2. 確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな質の高い医療人を育成する。 3. 卒前臨床教育および卒後臨床研修を充実し、保健と医療と福祉の連携・統合を目指した創造的な教育を推進する。 4. 科学的根拠に基づいた先進的な医療を提供するために臨床研究を遂行し、医学・歯学の発展に寄与する。 5. 地域医療機関との連携を深め、高度で安全な地域医療を実践することによって地域社会に貢献する。

② 概要（病床数・診療科目）

a） 大学病院

［病 床 数］ 24 床

［診 療 科 目］ 内科、心療内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、歯科、歯科口腔外科、小児歯科、矯正歯科、口腔インプラント科（院内標榜）、歯科放射線科（院内標榜）

［専門外来他］ 音声言語外来、聴覚外来、高次脳機能障害（もの忘れ）外来、看護ケア外来、摂食・嚥下外来、歯科麻酔外来、口腔内科相談外来、顎変形症外来、スポーツ歯科外来、歯科訪問診療、言語聴覚治療室、医療心理室、医療相談・地域連携室、栄養相談室、リハビリテーション室

b） 歯科クリニック

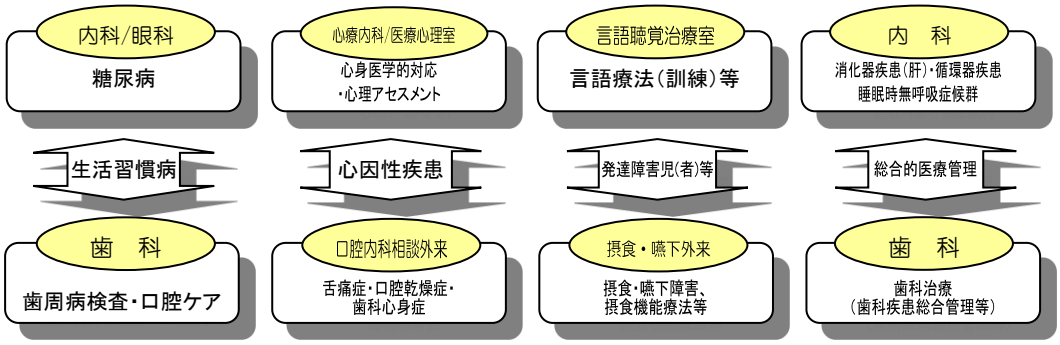
［診 療 科 目］ 歯科、歯科口腔外科、小児歯科、矯正歯科、口腔インプラント科（院内標榜）

［専門外来他］ 口腔乾燥症外来、歯科麻酔科、歯科放射線科、スポーツ歯科外来、顎変形症外来、顎顔面補綴外来、顎関節症外来、白い歯外来、訪問歯科診療室

③ 医科と歯科の連携

a） **大学病院**：大学病院では、医科部門と歯科部門の特色を生かし、医科と歯科の連絡、連携体制をとっている。

【 大学病院における医科部門と歯科部門の連携の概念図 】



＜大学病院の取組＞

歯科は、かかりつけ、歯科訪問診療から外科的手術、CAD/CAM、インプラントなど先進的な歯科治療技術までを提供し、医科では、循環器疾患、眼科疾患、糖尿病などを中心に歯科治療における総合的医療をサポートしている。さらには、ピロリ菌や内視鏡検査、肝炎検査など消化器疾患の診療体制を強化、リハビリテーション機能も取り入れながら多職種連携を実践、地域から信頼される医療を目指し提供している。

また、医療相談・地域連携室を窓口とし、医科歯科全般において他医療機関や行政、介護関係事業所との連携を密に行ない退院支援や外来患者相談の解決を図っており、各医療職員による専門職ならびに住民向けの講演や小・中・高校生向けの職業体験、野球肘検診、肝炎検査勧奨活動、地区社協活動など地域住民との交流に努めている。

地域の夏まつりでの肝炎検査勧奨活動

b） **歯科クリニック**：歯科クリニックでは、健康増進に寄与することを目的に、顎・口腔領域の疾患の全てを対象に診療を行っている。小児、障害あるいは基礎疾患をもっている方、歯科診療が苦手な方、高齢者の方などにも安全・快適に歯科診療を受けていただけるよう、歯科関連専門医が連携を図り診療を行っている。専門外来では各疾患を専門とする歯科医師が共同で診療を行っている他、通院が困難な方には歯科訪問診療を行っている。さらに、各地域の会合で歯科に関する講演活動も積極的に開催している。

＜歯科クリニックの取組＞

地域医療に貢献すべく、通院が困難な方を対象に、歯科医師と歯科衛生士による歯科訪問診療を積極的に行っている。

対象の方／病気や怪我で体が不自由な方（脳梗塞後遺症、圧迫骨折、寝たきり、認知症など）

診療内容／虫歯治療、歯周病治療、入れ歯治療、抜歯、レントゲン撮影、口腔ケア、口腔衛生指導など

口腔衛生指導の様子

④ 職員数、兼担数

a） 大学病院

職種	常勤	非常勤	兼担	計	（兼担の所属学部内訳）	職種	常勤	非常勤	兼担	計	（兼担の所属学部内訳）
医師	14	13	9	36	（薬 1,歯 2,看 1,リ 3,医 2）	歯科衛生士	20	1	－	21	
歯科医師	33	61	59	153	（歯 58,医 1）	歯科技工士	5	－	－	5	
研修歯科医	13	－	－	13		診療放射線技師	3	－	－	3	
薬剤師	2	－	3	5	（薬 3）	臨床検査技師	2	2	1	5	（医 1）
看護師	31	16	2	45	（看 2）	視能訓練士	2	－	－	2	
准看護師	－	－	－	－		管理栄養士	1	－	－	1	
臨床心理士	－	－	4	4	（歯 1,心 3）	医療ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ	1	－	－	1	
理学療法士	3	－	8	11	（リ 8）	医療系その他	－	8	－	8	
作業療法士	－	－	8	8	（リ 8）	事務職員	5	－	－	5	
言語聴覚士	1	－	9	10	（リ 9）	技術職員	2	－	－	2	

b） 歯科クリニック

職種	常勤	非常勤	計	職種	常勤	非常勤	計	職種	常勤	非常勤	計
歯科医師	56	18	74	看護師	1	－	1	事務職員	6	1	7
研修歯科医	11	－	11	診療放射線技師	1	－	1	事務その他	－	－	－
薬剤師	1	－	1	歯科衛生士	13	－	13				
臨床検査技師	1	－	1	歯科技工士	3	－	3				

⑤ 患者数推移

a） 大学病院

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
医科（1 日当たり）	64,195（264.2）	63,051（259.5）	61,689（252.8）	61,721（257.2）	61,579（259.8）
歯科（1 日当たり）	64,907（267.1）	65,712（270.4）	62,827（257.5）	62,891（262.0）	60,340（254.6）
入院（1 日当たり）	3,403（9.3）	3,081（8.4）	3,265（8.9）	3,663（10.0）	3,308（9.0）
病床稼動率	38.7%	35.2%	37.3%	41.7%	37.8%

b）歯科クリニック

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
歯科（1 日当たり）	25,605（106.7）	23,831（ 99.3）	24,306（102.1）	24,416（103.0）	22,743（ 96.4）
サテライト（1 日当たり）※	5,172（ 22.0）	1,854（ 7.7）	2,311（ 9.7）	2,124（ 9.0）	2,284（ 9.7）

※2015 年 3 月末、浦臼町歯科診療所の診療業務契約が完了。2016 年度以降は歯科訪問診療のみ。

⑥ 臨床実習生の受入状況

臨床実習については、本学の学部・学科・研究科のほか、本学以外の学校からも実習生の受け入れを行っている。

a) 大学病院

学部・学科・学校等			2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
学部	薬学部		3	3	3	6	4
	歯学部		89	85	97	143	146
	看護福祉学部	看護学科	8	16	16	16	16
		臨床福祉学科	4	5	4	4	3
	心理科学部	言語聴覚療法学科	5	67	2	0	0
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	理学療法学科	3	5	1	5	7
		言語聴覚療法学科	−	−	57	1	0
大学院	看護福祉学研究科	看護学専攻	1	4	3	0	1
歯科衛生士専門学校		歯科衛生科	28	51	45	84	28
小樽歯科衛生士専門学校		歯科衛生士科	18	16	20	17	25
札幌歯科学院専門学校		歯科技工科	1	−	−	−	−
		歯科衛生士科	23	24	24	24	26
北海道ﾊｲﾃｸﾉﾛｼﾞｰ専門学校		視能訓練士学科	−	−	−	−	−
大原医療福祉専門学校		社会福祉士養成課程	−	1	−	−	−
北海道歯科医師会障がい者歯科医療協力医制度実習コース			−	−	−	−	−
台北歯科衛生士専門学校			−	−	−	−	−

b) 歯科クリニック

学部・学校	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
歯学部	89	85	51	66	67
歯科衛生士専門学校（歯科衛生科）	45	42	34	29	27

⑦ 歯科医師臨床研修

歯科医師臨床研修は、2006 年から義務化（法制化）された。両医療機関は歯科医師臨床研修マッチング協議会が実施する「歯科医師臨床研修マッチングプログラム」に参加し、研修歯科医を受け入れている。また、歯学部学生に対する歯科医師臨床研修説明会を共同で開催するほか、北海道歯科医師会主催の「臨床研修指定病院合同セミナー」に参加している。

歯科医師臨床研修の協力型施設数は、2019 年 5 月現在 145 施設。協力型施設は、大学病院又は歯科クリニックと連携し、各プログラムに基づき 8 か月［B プログラム］又は 4 か月［C プログラム］の間、研修歯科医の受入を行うことになる。また、協力型施設の指導歯科医は、本学の臨床教員として委嘱する。なお、［A プログラム］は、大学病院又は歯科クリニック単独で、12 か月間の研修を行うプログラムである。

研修歯科医受入数

区分			2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
歯科医師臨床研修科	大学病院	（定員 46）	16	13	14	13	13
	歯科クリニック	（定員 14）	9	7	11	9	11
合計		（定員 60）	29	31	25	20	24

※2019 年度より定員変更（大学病院 42 名→46 名、歯科クリニック 30 名→14 名）

⑧ 地域の保健医療福祉機関との連携・協力（連携・協力施設）

大学病院及び歯科クリニックは、老人保健施設、障害者福祉施設等と連携し、歯科医療に当たっている。

a) 大学病院

施設名	施設種別	開設者	所在地	連携・協力内容
札幌自閉症自立支援ｾﾝﾀｰゆい	自閉症自立支援施設	社会福祉法人 はるにれの里	札幌市東区	歯科訪問診療
八雲病院	医療機関（筋ｼﾞｽ等専門）	独立行政法人 国立病院機構	二海郡八雲町	協力医療機関・歯科訪問診療
ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ	介護老人保健施設	医療法人社団 愛心館	札幌市北区	協力医療機関・歯科訪問診療
白ゆりあいの里	介護老人福祉施設	社会福祉法人 悠生会	札幌市北区	歯科訪問診療
雪の聖母園	障害者支援施設	社会福祉法人 雪の聖母園	樺戸郡月形町	協力医療機関・歯科診療
月形藤の園	介護老人福祉施設	社会福祉法人 藤の園	樺戸郡月形町	協力医療機関・歯科訪問診療

b) 歯科クリニック

施設名	施設種別	開設者	所在地	連携・協力内容
北海道立福祉村	重度身体障害者授産施設	北海道	空知郡栗沢町	協力医療機関・歯科診療
新篠津更生園	精神薄弱者更正施設	社会福祉法人 新篠津福祉会	石狩郡新篠津村	協力医療機関・歯科診療
すぎの子の郷	認知症対応型共同生活介護	医療法人社団 豊生会	石狩郡当別町	協力医療機関・歯科診療
厚田はまなす園	知的障害者援護施設	社会福祉法人 はるにれの里	厚田郡厚田村	協力医療機関・歯科訪問診療
厚田みよし園	介護老人福祉施設	社会福祉法人 厚栄福祉会	厚田郡厚田村	協力医療機関・歯科訪問診療
つきがた友朋の丘	障害者支援施設	社会福祉法人 札親会	樺戸郡月形町	歯科訪問診療
月形愛光園	特別養護老人ホーム	社会福祉法人 月形福祉会	樺戸郡月形町	歯科訪問診療
月形藤の園	特別養護老人ホーム	社会福祉法人 藤の園	樺戸郡月形町	歯科訪問診療
江別谷藤病院	医療機関	医療法人社団 藤花会	江別市	歯科訪問診療
長寿園	特別養護老人ホーム	社会福祉法人 当別長生会	石狩郡当別町	歯科訪問診療

⑨ 職業体験実施状況（大学病院）

大学病院では、小中高校生を対象とした職業体験を実施している。

・2016（平成 28）年度

	日程	学校名	学年	人数	受入れ部門
1	8/ 4（木）	札幌英藍高等学校	2	2	看護部
2	8/ 5（金）	札幌稲雲高等学校	2	5	看護部
3	9/ 5（月）	札幌光星高等学校	2	4	看護部
4	10/26（水）	札幌英藍高等学校	1	6	インタビューのみ、DH、PT、技工
5	11/ 8（火）	北海道教育大附属中学校	2	4	薬剤部、歯科衛生部
6	11/15（火）	札幌あいの里西小学校	6	11	看護部、歯科衛生部
7	11/17（火）	札幌市立篠路中学校	2	6	歯科技工部
8	1/ 6（金）	札幌北高等学校	1	10	薬剤部、看護部、心理

・2017（平成 29）年度

	日程	学校名	学年	人数	受入れ部門
1	5/11（木）	当別高等学校		2	看護部
2	8/ 1（火）	北広島高等学校		4	看護部
3	8/7(火)-9(木)	市立札幌開成中等教育学校	3	2	リハビリテーション室、歯科技工部、臨床心理室
4	8/10(木)	札幌英藍高等学校	2	5	看護部
5	10/26（木）	札幌手稲高等学校	1	6	看護部、歯科衛生部
6	10/12（木）	北海道教育大附属中学校	2	4	薬剤部、リハビリテーション室
7	11/16（木）	札幌市立篠路中学校	2	6	薬剤部、看護部
8	11/21（火）	札幌あいの里西小学校	6	3	薬剤部
	11/22（水）		6	3	リハビリテーション室
9	1/ 9（火）	札幌北高等学校	1	18	薬剤部、看護部、リハビリテーション室、臨床心理室

・2018（平成 30）年度

	日程	学校名	学年	人数	受入れ部門
1	5/9（水）	北広島高等学校①	3	3	看護部
	5/28（月）	北広島高等学校②	3	3	看護部
2	8/7(火)	札幌英藍高等学校	3	5	看護部
3	10/9（火）	北海道教育大附属中学校	2	5	薬剤部、看護部、臨床心理室
4	10/17（水）	札幌手稲高等学校	1	8	言語聴覚治療室、臨床心理室、医療相談・地域連携室
5	11/15（木）	札幌あいの里西小学校	6	9	薬剤部、リハビリテーション室、歯科技工部
6	11/22（木）	札幌市立篠路中学校	2	6	看護部、臨床検査室
7	1/10（木）	札幌北高等学校	1	17	歯科部、薬剤部、看護部、臨床検査室

・2019（令和元）年度

	日程	学校名	学年	人数	受入れ部門
1	6/14(金)	札幌光星高等学校	3	5	看護部
2	7/19(金)	北広島高等学校	3	4	看護部
3	7/31(水)	藤女子高等学校	3	5	看護部
4	8/2（金）	札幌英藍高等学校	3	5	看護部
5	9/4（水）	札幌市立あいの里東中学校	2	8	歯科部、リハビリテーション室
6	10/15（火）	北海道教育大学附属中学校	2	4	薬剤部、看護部
7	10/16（水）	札幌手稲高等学校	1	3	臨床心理室
8	11/21（木）	札幌市立篠路中学校	2	12	歯科部、薬剤部、リハビリテーション室
9	11/22（金）	札幌市立新琴似中学校	2	6	歯科技工部、臨床心理室
10	1/10（金）	札幌北高等学校	1	17	薬剤部、看護部、リハビリテーション室、臨床心理室、臨床検査室

（2）全学教育推進センター

2007年に開設された「大学教育開発センター」は、本学の教育力向上を目的として、全学的な協力の下に全学教育プログラムの開発と推進を担うとともに専門教育プログラムの開発を支援している。
なお、2019年４月、学内及び学外に向けて広く認知を促していくため、活動内容を体現した「全学教育推進センター」に組織名を変更した。

1. 管理・運営体制

2007 年に開設した大学教育開発センターは、2012 年度に組織と構成員の見直しを図り、2019 年度には「全学教育推進センター」に組織名変更を行い、全学教育のプログラムの開発と、その実施及び教育改善等を行い、本学の教育の発展に資することを目的として活動している。全学教育科目ついては、毎年度、授業題目そのほかの検討・調整を行うなど、センターが開発した全学教育プログラムを、各学部教育との連携を図りながら実施している。

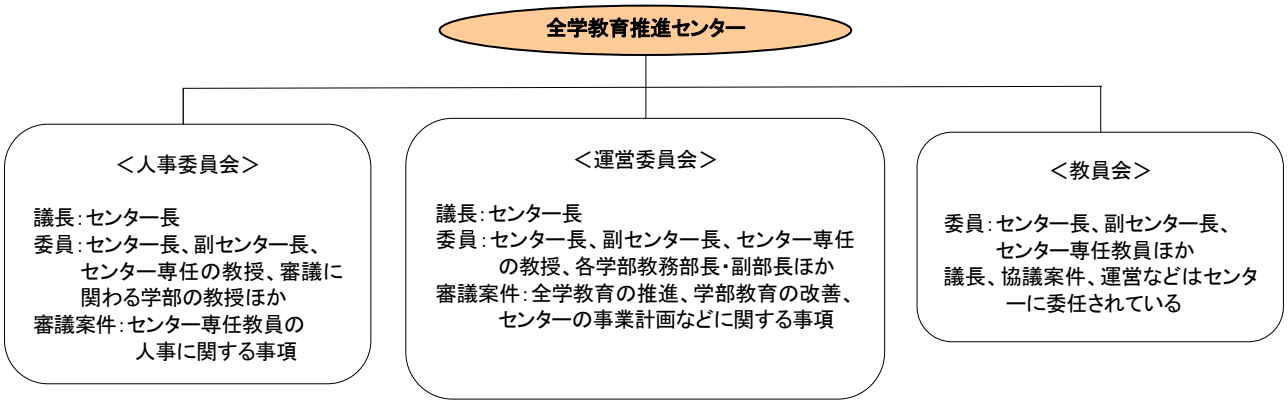
①組織・・・・・・　センターは、原則として毎月定例で開催する「運営委員会」及び「教員会」、人事案件の協議のため必要時に開催する「人事委員会」で構成され、運営にあたっている。

また、教員の教育・研究分野により「言語文化分野」、「人文社会科学分野」、「物質・情報分野」、「生物・運動科学分野」の 4 分野を設けており、各分野には主任・副主任を置くとともに、全学教育にかかわる分野間の調整や情報共有等を行う分野主任会議を適宜開催し、連携の強化を図っている。

さらに 2016 年度から、センターの教育機能の充実等を図るため、「教育開発グループ」と「FD 活動推進グループ」を組織化したほか、センター関係会議の議事運営の諸調整等を行う「センター小委員会」や同一の学部に所属するセンター教員全員を構成員とする「人間基礎科学講座教員会議」を定例開催し、センター運営の効率化や情報共有等の強化に努め、全学教育のより一層の充実をすすめている。

②構成員・・・・　各学部の専任教員のうち、主に全学教育を担当する教員はセンター専任教員としてセンターの業務も併せて担当する。

③事業・・・・・・　センターが担うべき業務は全学教育の開発や計画、実施、推進等であるが、加えて全学教育の見地から学部教育の教育改善に対する支援も行う。また、センターに所属する教員の人事案件に関して協議する。



2. 活動状況

2007年度に大学教育開発センターを設置し、当初のプロジェクトである「全学教育科目」の構築と導入に取り組み、2009年度から実質運用した。

「全学教育科目」とは、各学部・学科がそれぞれの判断でカリキュラムに組み込んでいたいわゆる一般教育科目について、全学的な見地から、全学の学生が系統的・体系的に履修しうるプログラムに改編したものである。「教養教育」、「基礎教育」、ならびに専門科目への橋渡しとなる「医療基盤教育」の3つのカテゴリーで構成されている。2014年度には、「個体差健康科学」について「多職種連携」の入門科目と位置付け、内容の大幅な見直しを行った。全学部及び専門学校の混成クラスを編成し、将来の職種の異なる学生が実際に連携して学習を進めることができるよう学生参加型の授業内容となっている。さらに、2019年度は更なる教育効果向上を目的とし、全学教育科目を大幅に見直し、外国語科目の充実及び「個体差健康科学」を廃止し、「多職種連携」を授業科目に位置付け、医療基盤科目の充実を図った。

センターの活動の柱は上述した「全学教育科目」の開発と運用であるが、その他セミナーの開催、各種研修への派遣、授業アンケート結果の分析等を行っている。

(3)先端研究推進センター

本学では、附置研究施設として 2002 年 1 月に個体差健康科学研究所（2017 年 4 月健康科学研究所に名称変更）を開設、2016 年 4 月にはがん予防研究所を設置し、本学の研究活動を支える役割を担ってきたが、両研究所の研究実績を基礎として 2020 年 4 月、本学の総合力を生かし、研究活動を一層活性化させ、特色ある研究実績を創出することを目的として先端研究推進センターを開設した。

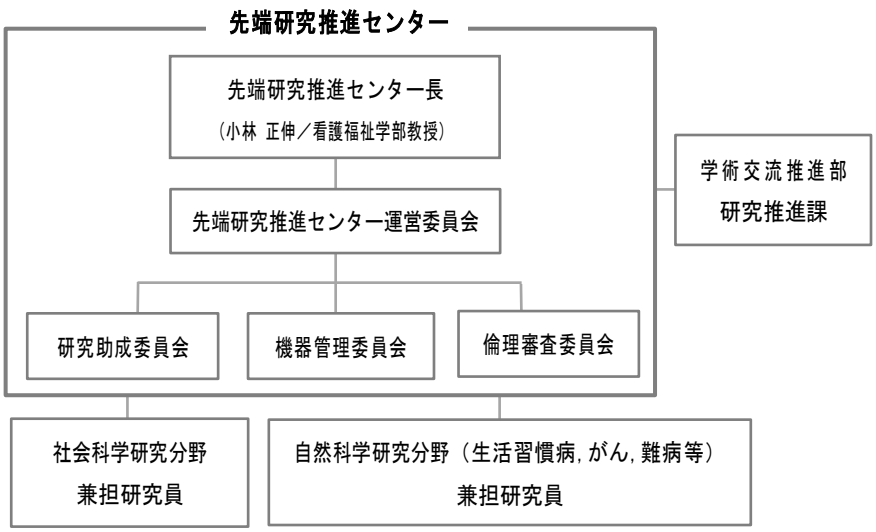
全学が一体となって本学を代表する研究を生み出す組織として、本学の特長を生かした研究課題に取り組み、将来的には大型研究助成の確保も目指すものである。

① 管理・運営体制

センター長のもとに運営委員会を置き、センターの基本方針、年間活動計画、予算、人事など重要事項を審議する。構成員はセンター長、副センター長、センター専任職員、各委員会の委員長ならびにセンター長が必要と認めた職員とする。

運営委員会の傘下には研究助成、機器管理、倫理審査など実務を担う委員会を設ける。

また、センターの研究活動の主体となるのは、学部との兼担となる兼担研究員であり、センターの事務は学術交流推進部研究推進課が所管する。



② センターの目標

センターとしての一体感を醸成し、携わる研究者間の相互理解を深めつつ研究活動を推進し、センターの最終的な目標を「疾患予防法（がん、生活習慣病、難病等の予防法）の確立」に置く。

③ 委員会

研究助成委員会は、各種研究助成金の情報を集約して研究者に提供し、応募の促進を図る。

機器管理委員会は、センターが保有する研究用機器を掌握し、効率的かつ効果的な利用に向けた方策を策定する。機器の導入や更新についても、全学的な視点からプランニングを行う。

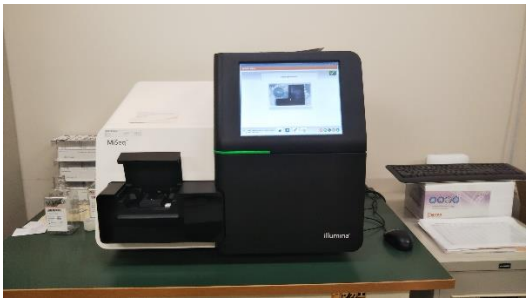
本学研究倫理規程に基づいて置かれる倫理審査委員会は、人を対象とする研究が各種倫理指針等の趣旨に沿った倫理的配慮のもとに適切に推進されることを目的とする。

④ 活動の概要

センターの最終的な目標である「疾患予防法（がん、生活習慣病、難病等の予防法）の確立」に向けて、定期的に研究検討会と抄読会を開催する。

研究検討会では研究活動の進捗の報告と意見交換を行い、研究活動のブラッシュアップを図る。抄読会は、研究の最先端を研究員全体で共有することを目的とする。研究検討会と抄読会への参加はオープンであり、全学の研究者が自由に参加できる。

研究者間の交流が深まることで共同研究の展開が促進され、論文数の増加、より高度な研究成果の獲得、各種助成金採択率の向上などを見込んでいる。大学全体の研究活動のベクトルを整えることで、センターの目標の実現に寄与する、本学を代表する研究が生まれてくることが期待されている。



⑤ 施設の概要

＜2階建て延床面積 808.45 ㎡＞

1F　オープン・ラボラトリー室(54.77 ㎡)、研究室(2 室:89.26 ㎡)、教員室(4 室:81.41 ㎡)、研究員室(25.38 ㎡)

2F　遺伝子機能研究室(136.22 ㎡)、組織培養室(35.66 ㎡)、脳機能研究室(81.41 ㎡)、セミナー室(27.56 ㎡)

⑥ 専任職員

2020 年 4 月現在、2 名の助教が配置されている(高井　理衣・北川　孝雄)。

⑦ 兼担研究員

センターの研究活動の主体である兼担研究員を各学部等の教員から委嘱する。
任期は 2 年、審査を経て委嘱期間の延長も可能とする。

【薬学部】7 名	教　授	中川　宏治	(薬学教育支援室)
	教　授	二瓶　裕之	(物質・情報分野)
	教　授	泉　　剛	(臨床薬理毒理学)
	教　授	小島　弘幸	(環境衛生学)
	准教授	高上馬　希重	(生薬学)
	准教授	寺崎　将	(環境衛生学)
	講　師	鹿内　浩樹	(臨床薬理毒理学)
【歯学部】18 名	教　授	古市　保志	(歯周歯内治療学)
	教　授	長澤　敏行	(臨床教育管理運営)
	教　授	谷村　明彦	(薬理学・機器管理委員長)
	教　授	會田　英紀	(高齢者・有病者歯科学)
	教　授	千葉　逸朗	(保健衛生学)
	教　授	安彦　善裕	(臨床口腔病理学)
	教　授	永野　恵司	(微生物学)
	准教授	豊下　祥史	(咬合再建補綴学)
	准教授	門　　貴司	(歯学教育開発学・歯周歯内治療学)
	講　師	加藤　幸紀	(歯周歯内治療学)
	講　師	宮川　博史	(微生物学)
	講　師	佐藤　惇	(臨床口腔病理学)
	助　教	植原　治	(保健衛生学)
	助　教	吉田　光希	(臨床口腔病理学)
	助　教	菅　　悠希	(咬合再建補綴学)
	助　教	清水　伸太郎	(歯周歯内治療学)
	助　教	原田　文也	(顎顔面口腔外科学)
	助　教	藤田　真理	(微生物学)
【看護福祉学部】7 名	教　授	竹生　礼子	(地域看護学)
	教　授	工藤　禎子	(地域看護学)
	教　授	濱田　淳一	(生命基礎科学・倫理審査委員長)
	教　授	向谷地　生良	(精神保健福祉学)
	教　授	志水　幸	(介護福祉学)
	准教授	佐藤　園美	(精神保健福祉学)
	講　師	奥田　かおり	(精神保健福祉学)
【心理科学部】1 名	助　教	西牧　可織	(物質・情報分野)
【リハビリテーション科学部】2 名	教　授	太田　亨	(言語聴覚療法学科・副センター長)
	教　授	鈴木　英樹	(理学療法学科)
【医療技術学部】1 名	教　授	藏滿　保宏	(臨床検査学科・研究助成委員長)
【北海道医療大学病院(予防医療科学センター)】4 名	教　授	北市　伸義	(医学部門)
	教　授	工藤　俊彦	(医学部門)
	准教授	平岡　美紀	(医学部門)
	准教授	河野　豊	(医学部門)
【地域包括ケアセンター】2 名	佐藤　明子		(訪問看護)
	村上　正和		(訪問リハ)

2020 年 4 月 1 日現在、以上合計 42 名

⑧ 主な研究用機器

リアルタイム PCR
レーザーフォトリシス・システム
多光子レーザー顕微鏡
パッチクランプ装置
マルチガス・インキュベータ
モレキュラー・イメジャー
シークエンサー（ジェネティック・アナライザー）
マイクロダイセクション・システム
超低温フリーザー(−80℃)
超低温フリーザー(−135℃)
超高速自動細胞解析分取システム
共焦点レーザー顕微鏡パーフェクトフォーカスシステム
FT－NMR装置
マイクロアレイ解析装置
次世代シークエンサー

※詳細は先端研究推進センターホームページに掲載しています。
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~sentan/

⑨ プロジェクト

センターの目標達成に向けて、自然科学系および社会科学系それぞれ複数のプロジェクト研究を並行して展開する。

自然科学系

1. 歯周病と全身疾患の関連
   ① 歯周病と膵がん　② 歯周病と食道がん　③ 歯周病と胃がん
   ④ 歯周病と動脈硬化症　⑤ 歯周病と脂肪肝　⑥ 歯周病と早産
   ⑦ 歯周病と自己免疫疾患　⑧ 歯周病と眼科疾患
2. 口腔機能と認知症
3. 当別町の植物の生薬への応用
4. 化学物質による核内受容体を介した免疫調節機能に関する研究

社会科学系

1. 当事者研究
2. 当別町の医療・福祉の向上
   ① リハを中心とした共同研究
   ② 看護学科を中心とした健康問題に関する共同研究
   ③ 臨床福祉学科を中心とした介護・福祉に関する共同研究
   ④ 当別町における浜松医大との共同研究
3. AI を用いた教材の開発

⑩ 先端研究推進センターセミナー（仮称）

先端研究推進センターでは、国内外の先端研究に携わる研究者を招聘して年に数回、セミナーの開催を予定している。
以下、2019 年度に旧健康科学研究所が開催したセミナーの内容を参考まで掲載する。参加者数は各回 40 名前後であった。

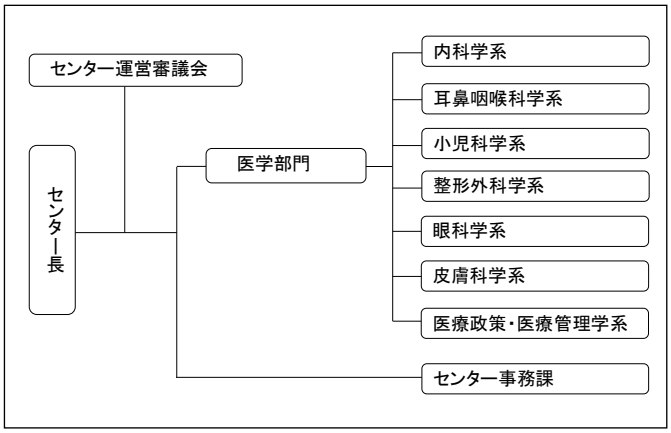
	開催日	講　師	演　題
1	2019 年　6 月　7 日（金）	北海道大学名誉教授・愛心メモリアル病院眼科部長　大野　重昭	稀少難病ベーチェット病の変遷
2	2019 年　6 月 14 日（金）	日本大学生物資源学部獣医学科教授　杉谷　博士	ダイレクトリプログラミングによる神経再生—脱分化脂肪細胞を用いたアプローチ
3	2019 年 10 月 29 日（火）	東京大学大学院医学研究科教授　星　　和人	再生医療で拓く新しい口腔顎顔面外科
4	2020 年　1 月　9 日（木）	京都大学 iPS 細胞研究所准教授　原田　直樹	ヒトゲノム・iPS の現状

(4) 予防医療科学センター

1990 年 10 月開設の医療科学センターを元に、2005 年7月に開設された個体差医療科学センターの名称を 2017 年 4 月、「予防医療科学センター」に変更した。同センターは開設以来、医学･歯学･薬学各分野の研究活動を柱に、地域医療の充実への貢献、臨床教育の場としての実習生の受け入れなど、北海道医療大学のミッションならびに教育理念、教育目的を支えてきたが、2011 年4月に組織を改編し、歯学部門は歯学部へ、薬学部門は薬学部へ統合し、現在は医学部門7学系により構成されている。

① 研究部門

予防医療科学センターは、医学部門7学系からなり、本学各学部と連携して研究活動を推進している。



② 教員数(医学部門)

教授 4(1)、准教授 1、講師 5　合計 10(1)

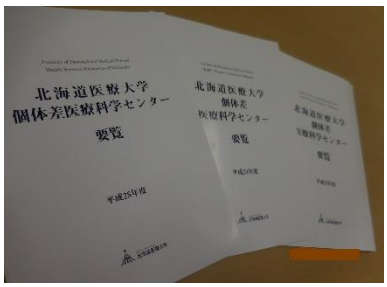
※( )は歯学部教授を兼務で内数

③ 研究成果

医療科学センター要覧を受け継ぎ、予防医療科学センターにおいても次のとおりほぼ毎年度、要覧を発行している。研究活動と研究業績を公表するとともにセンターの概要や受託研究・治験受託研究の実績などを紹介し、学園組織図、関連規程、職員名簿など関連資料を添えている。

【近年の要覧発行実績】

- ・平成 25 年度版　(2015. 3 発行)
- ・平成 26 年度版　(2016. 3 発行)
- ・平成 27 年度版　(2017. 3 発行)
- ・平成 28 年度版　(2018. 3 発行)
- ・平成 29 年度版　(2019. 3 発行)
- ・平成 30 年度版　(2020. 3 発行)



④ 予防医療科学センター倫理委員会(2017 年度より名称変更)

倫理委員会における臨床研究の審査件数は次のとおりである。

年 度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
件 数	11	17	32	28	15	14	33

※2016 年度までの名称:個体差医療科学センター倫理委員会

⑤ 教育担当

センター教員が担当する教育(各学部・研究科等の授業)の 2019 年度実績は次のとおりである。

学部･研究科･学校	担当教員	授業科目名	学年	開講時期	時間数
歯学部	北市教授	その他の隣接医学 (眼科学)	5	前期	8
	岡村教授	歯科医療管理学			4
心理科学部 リハビリテーション科学部	森谷教授	内科学	2	前期	4
	工藤教授				4

（5）地域包括ケアセンター

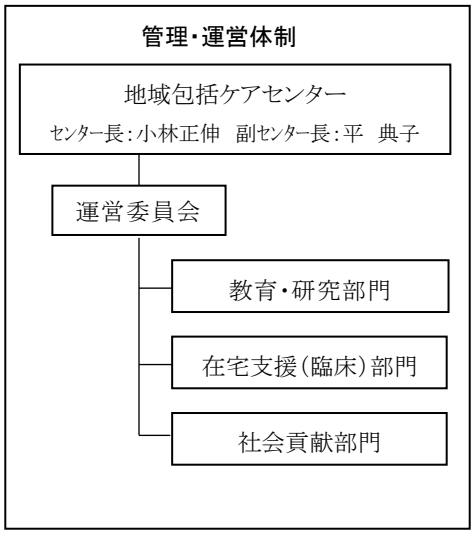
超高齢社会を迎え、医療・介護システムの変革が求められている中、厚生労働省が推進しているのが「地域包括ケアシステム」の構築である。これは、病院や福祉施設を中心に提供してきた医療、介護、予防、生活支援などのサービスを、在宅でも一体的に受けることができるシステムで、住み慣れた自宅で、人生の最後まで自分らしい暮らしを送れるような地域社会をめざすものである。

国を挙げて在宅医療・介護へのシフトを推進する社会的状況に、本学はいち早く対応し、2015 年 12 月、札幌あいの里キャンパス・北海道医療大学病院の隣接地に「地域包括ケアセンター」を開設した。看護師、福祉専門職、リハビリテーション専門職などが密接に連携した在宅ケアを展開し、学生の実習拠点としても機能させる。在宅医療・介護の現場で即戦力となる人材を育成するための多職種連携教育をさらに充実させる。

病院や福祉施設で行われる従来の隣地実習は、相互に独立した専門領域縦割り型が中心だったが、地域包括ケアセンターでは、学部学科の枠を超えて多領域を横断し、地域で暮らす住民の生活に密着した実習を行うことが可能である。在宅医療・介護の現場で必要とされる高度な専門性、多職種連携の深い理解、そして豊かなコミュニケーション力を実践的に習得する。

①　管理･運営体制

「北海道医療大学地域包括ケアセンター規程」に基づいて運営委員会を設置し、センターの円滑な管理運営を図っている。



②　所在地

札幌市北区あいの里2条6丁目2

③　施設

在宅支援のためのスペースに加え、地域住民の方々に開かれた多彩な交流会を開催する「地域交流サロン」、学生の実習や演習、専門職業人の生涯学習の場として活用する「研修室」を設置している。　※延床面積　437.5 ㎡（132.5 坪）

④　事業内容

教　育	・学部・大学院生の教育、多職種連携教育 ・専門職業人の生涯学習
研　究	・住民の生活習慣、生活機能に関する研究 ・高齢者ケア、認知症ケアに関する研究 ・教育効果に関する研究
在宅支援（臨床）	・訪問看護（訪問リハ含む） ・居宅介護支援事業 ・在宅歯科診療 ← 大学病院等との連携
社会貢献	・地域住民の交流の場づくり事業 ・地域住民の健康づくり支援事業 ・認知症患者および家族の支援事業 ・地域関係機関との連携

⑤　訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・在宅歯科診療所

提供サービスの概要

・訪問看護ステーション：状態の観察（血圧・体温などの測定・観察）、食事・排泄の援助（食事内容の提案など）、床ずれの予防や創の手当（予防的・治療的な皮膚のケア）、リハビリテーション（自宅でできる体操や呼吸のリハビリ）、清潔などの援助（入浴・清拭・フットケアなど）、点滴などの管理（医療用チューブや酸素などの管理）、緩和ケア・痛みの看護（痛みを和らげるなど）、看護・介護の相談（本人・家族の話し合いなど）、24 時間連絡・対応

・居宅介護支援事業所：介護保険に関する相談、要介護認定申請・更新申請の代行、介護保険関係書類の作成と申請（住宅改修・福祉用具購入）、ケアプランの作成（介護サービス計画）、その他福祉に関する相談

・在宅歯科診療所：歯科診療、口腔健康管理（専門的な口腔のケア）、口腔リハビリテーション

サービス提供時間

月曜日～金曜日　9:00～17:00（休業日：土・日・祝日・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日））

※訪問看護ステーション：上記時間外はオンコール対応

⑥　生涯学習等（2019 年度開催分）

内容	演題等	開催回数
住民交流の場づくり事業	リハビリテーション専門職による訪問看護スタートアップ研修	3 回
地域住民の健康づくり支援事業	子育て家族のためのホームケア　他	2 回
認知症の人と家族の支援事業	小学生と保護者向けの認知症サポーター養成講座	1 回
地域関係機関との連携事業	ずっと健康でいてほしい！「はつらつ教室」　他	3 回
教育事業	地域包括ケア入門「ソーシャルワーク実習に係る事前教育」	1 回

（6）薬学部附属薬用植物園

1985 年、薬用植物園は、薬用植物を栽培し、教育及び研究に資することを目的にそれまでの薬草園を移設、整備し設立された。約 2,900 ㎡の面積を有し、標本園には約 250 種の北方系薬草が栽培され、温室には約 220 種の南方系薬草が栽培されている。標本園周辺の斜面には 10 種類以上の北方系薬木が育てられている。また、一般にも公開しており、毎年開催される「薬草園を見る会」では、多くの参加者でにぎわっている。

① 管理・運営体制

薬学部附属薬用植物園規程に基づき、薬学部教授会から推薦された園長の下、薬用植物園運営委員会が組織され、管理・運営に当たっている。

② 施設

【温室】

＜薬用植物園温室　1階建て　341.46 ㎡＞

温室（141.1 ㎡）、研究室（55.4 ㎡）、作業室（27.8 ㎡）、乾燥室（19.8 ㎡）、管理室（23.8 ㎡）等

温室	薬用植物標本園	北方系薬木
○南方系植物 インドジャボク、 ウコン、キンカン、 クミスクチン、 チョウジ、 ガジュツ　等 約 220 種	○北方系植物 センキュウ、 ウイキョウ、ウラルカンゾウ、 オタネニンジン、 ダイオウ、 ジギタリス　等 約 250 種	キハダ、 キササゲ、 レンギョウ、 ホウノキトチュウ、 ニガキ、モクレン　等 約 10 種

【北方系生態観察園】

本学が所有する敷地の約 50%を占める山林（153,060 ㎡）には、40 種以上の北国の薬草・薬本が自生していることから「わたなべ山」の薬草公園構想が浮上し、2001 年6月に全長2km のウッドチップを敷き詰めた散策路が整備され、「北方系生態観察園」の名称で、植物だけでなく野鳥や昆虫、小動物の観察園として活用されている。

この広い園内には、日本薬局方に収載されている重要な薬用植物が多数自生している。先ず、大群落で観察できるところが非常に少なくなったウコギ科植物のトチバニンジン（生薬名：竹節人参）が全山に自生し、また、ラン科のオニノヤガラ（生薬名：天麻）が 100 株以上確認でき、現在栽培研究が進められている。ミカン科のキハダ（生薬名：黄柏）、ニガキ科のニガキ（生薬名：苦木）、モクレン科のホオノキ（生薬名：和厚朴）等、貴重な標本木として充分評価に耐えうるものが多数自生している。現在、植栽品も含め、600 種以上の植物が観察できる。

「薬草園」年間来園者数

2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
3,939 名	3,173 名	2,885 名	3,139 名	2,775 名

【北方系伝統薬物研究センター】

北方系伝統薬物研究センターは、絶滅危惧種の栽培法の確立と遺伝子保存を進めるとともに、アイヌが伝承してきた北方系伝統薬物の生物多様性解析を通じて未知の薬効成分を探索して創薬に結びつけるための研究施設である。

＜北方系伝統薬物研究センター　2階建て　552.60 ㎡＞

研究室（213.1 ㎡）

資料室（97.5 ㎡）

植物培養室（19.2 ㎡）

遺伝子保存庫（19.5 ㎡）

実験温室（20.4 ㎡）等

（7）動物実験センター

動物実験センターは、本学における研究・教育の用に供するため、実験動物を飼育管理し、実験動物に関する情報を提供することを目的に、1988 年 12 月に地上2階地下1階の実験・飼育施設として建設された。さらに、実験施設としての機能の高度化を図るため 2002 年 12 月に増築・改修した。

2017 年 3 月には、文部科学省私立大学等研究設備整備費補助金の選定事業として助成を受け、遺伝子改変動物用飼育装置（個別換気式飼育システム）1 台（70 ケージ）を導入した。さらに 2017 年度、同飼育システム 4 台（マウス用 70 ケージ×4）及びケージワッシャーを整備し、施設設備の充実を図った。2020 年度は同飼育システム1台（マウス用 70 ケージ×1）を整備するため、文部科学省私立学校等研究設備整備費等補助金に申請予定である。

① 管理・運営体制

動物実験センター規程に基づき、管理運営委員会が設置され、センター長の下、主任者・実験動物管理者が配置されている。また、利用に当たっては、講習会の受講が義務付けられている。

② 施設

＜地上4階地下1階建て 総床面積 1,866.7 m^2＞

一般実験・飼育室のほか、細胞工学室、遺伝子導入実験・飼育室、感染実験・飼育室が整備されている。

③ 主な設備・機器

安全キャビネット	2台	超低温フリーザー（-80℃）	1台	BBH 動物飼育ユニット	3台
倒立顕微鏡	2式	高圧蒸気滅菌器	4台	クリーンベンチ	2台
無影灯	2台	個別換気式飼育システム	5台	ケージワッシャー	1 台

（8）アイソトープ研究センター

アイソトープ研究センターは、1982 年3月、放射性同位元素並びに放射線関係の設備及び機器等を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供することを目的に設置された。以後、研究・教育の質的向上・充実と効率的な管理・運営のため、センターで取り扱う放射性同位元素の種類、数量や設備の適性化が図られてきた。2009 年3月には取扱い可能な非密封放射性同位元素を 23 核種に整理し、さらに、安全管理の向上のため、2010 年には緊急時対応マニュアルを策定している。2020 年度より本センターの利用を休止し、今後は廃止に向けた準備を進めていく。

① 管理・運営体制

北海道医療大学アイソトープ研究センター放射線障害予防規程に基づき、放射性同位元素管理委員会及びアイソトープ研究センター運営委員会が設置され、管理・運営されている。放射線障害の防止・安全確保のため、放射線取扱主任者・安全管理責任者により、センター利用者に対する法定教育訓練が実施され、安全管理者・施設管理者らにより、巡視点検、自主点検等が実施されている。2014 年に実施された原子力規制委員会による立入検査で、本センターの放射線安全管理が適切に行われていることが確認された。

② 施設

＜地上4階地下1階建て 延床面積 1,232 ㎡＞

地下1階（168 ㎡）：貯溜槽、希釈槽、施設設備機器室

1階（312 ㎡）：RI 貯蔵室、廃棄保管室、動物実験室

2階（308 ㎡）：管理事務室、実習室、合成実験室

3階（295 ㎡）：生化学実験室、試料測定室、暗室

4階（113 ㎡）：空調機器室等

③ 主な設備・機器

	設備・機器名	台数		設備・機器名	台数
放射線監視・管理用設備・機器	エリアモニター	6台	実験設備・機器その他	液体シンチレーションカウンター	1台
	ガスモニター	1台		オートウェルガンマーカウンター	2台
	ダストモニター	1台		ミクロ天秤	1台
	水モニター	1台		超低温槽-80℃	1台
	フロアモニター	1台		分離用超遠心機	1台
	トリチウムモニター	1台		高速冷却遠心機	1台
	ハンドフットクロスモニタ	1台		微量高速冷却遠心機	2台
	半導体電子ポケット線量計	15 台		高速液体クロマトグラフ	1台
	ビクトロン線量計	1台		凍結乾燥機	1台
	シンチレーションサーベイメーター	4台		CO2 インキュベーター	1台
	電離箱型サーベイメーター	2台		動物飼育フード	1台
	GM サーベイメーター	7台		動物廃棄物乾燥装置	1台
	管理区域入退室システム	1台			等

④ 研究・教育概要

個体差医療科学に資する人類遺伝学や機能系基礎歯科学分野の研究、創薬化学、薬物代謝、放射性医薬品開発等の薬学分野の研究が、当センターを利用して行われている。また、教育面では、薬剤師として必要なアイソトープ及び放射性医薬品の安全取扱や管理の実際を学ぶため、センターを利用した薬学部の学生実習が実施されている。2020 年度以降、本センターの利用を休止する。

（9）薬剤師支援センター

薬剤師支援センターは、「本学の教育理念及び教育目標に基づき、本学薬学部が有する諸機能と知的財産を広く社会に還元し、教育・研究等における医療現場との連携並びに薬剤師の生涯学習推進に寄与すること」を目的として、当初、薬学部内に設置し活動してきたが、2010年度に全学的なコンセンサスの下、「北海道医療大学薬剤師支援センター」として発展・拡充し、研修制度の事業運営等を通じて、医療現場で活躍する薬剤師の生涯学習の推進に貢献していくとともに、広く社会と連携を図っていくことを目指して、新たに活動を開始した。

同センターを中心にして行う「北海道医療大学認定薬剤師研修制度（以下、認定薬剤師研修制度）」は、「公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構」から「生涯研修認定制度認証機関（プロバイダー） 認証番号 ：G14」として認証（2011.3.25）され、2013年度には本制度で最初の「認定薬剤師」2 名を認証した。また、2020年 3 月には同機構から 2 回目の認証更新の承認を受けた。

○ 薬剤師支援センターの主な事業

薬剤師支援センターでは、これまで本学が NICE センター等で培ってきた生涯教育の実績等を基に「薬剤師研修講座」の開講等「認定薬剤師研修制度」の企画、立案および運営を行うほか、医療現場との連携による共同研究等の推進に取り組んでいる。

○ 認定薬剤師研修制度の概要

① 研修プログラム

薬剤師支援センターが企画・運営する「薬剤師研修講座」を研修プログラムの基本として、医療薬学をはじめ、広く医療にかかわる領域に関する最新の知識と技能を横断的に修得するためのプログラムを提供する。

プログラムには、臨床薬学講座、地域医療講座等のほか、生涯学習事業連携講座として、漢方・薬用植物研究講座 、医療薬学セミナー（薬学部同窓会共催）等がある。また、2016 年度より新たな取り組みとして市民公開講座を開催している。

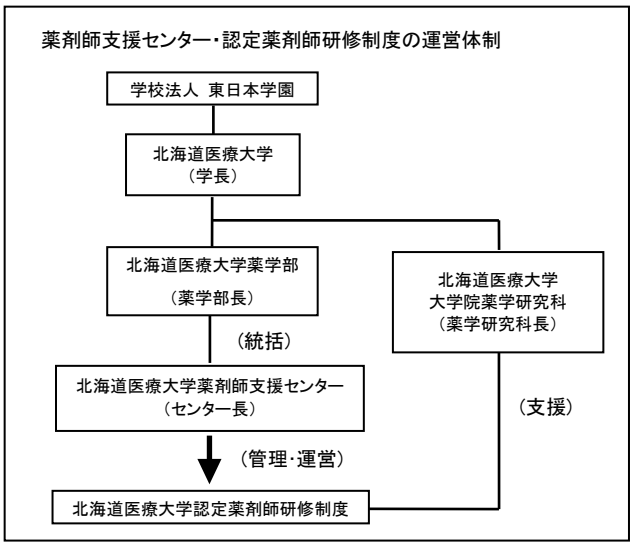
② 研修単位の付与と「認定薬剤師」認定申請

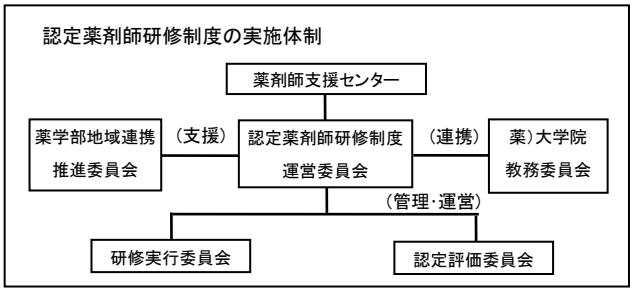
本学が主催・共催する研修プログラムの受講者への研修単位は、認定基準に基づき、90 分につき1単位を付与する。

研修単位は、研修開始日 から 4 年以内に 40 単位以上（本学主催・共催の研修単位 15 単位以上を修得し、かつ毎年 5 単位以上）を修得することにより、「認定薬剤師」の認定を申請することができる（初回認定）。

なお、本規定にもとづき、2013 年度に本制度で最初の「認定薬剤師」2 名を認証した。

※認定薬剤師発給数 19 名（2020 年 5 月 1 日現在）





○ 薬剤師認定制度認証機構による認証

本学の認定研修制度は、「公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構」により、「生涯研修認定制度認証機関（プロバイダー） 認証番号 ：G14」として認証され、2020 年 3 月に 2 回目の認証更新の承認を受けている。同機構は、薬剤師の資質及び専門性の向上に寄与すること等を目的に、薬剤師に対する各種の生涯学習と認定制度を第三者評価する機関で、基準に適合する優れた研修認定制度を認証し公表している。

認証番号 G14

○2019 年度事業実績

講 座 名	認定単位数（単位）	実施回数（回）	認定シール交付実績（枚）	備 考
将来ビジョン講座	1	9	411	薬剤師研修講座
医療安全対策講座	2	1	17	
地域がん医療薬剤師養成基礎講座	1	1	65	がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン連携講座
	2	1	27	
漢方・薬用植物研究講座	1	1	7	生涯学習事業 連携講座
	2	6	51	生涯学習事業 連携講座
生涯学習事業（旧医療薬学セミナー）	1	10	141	生涯学習事業 連携講座／薬学部同窓会共催
	合計	29	719	

○2020 年度事業計画

講 座 名	認定単位数（単位）	実施回数（回）	備 考
将来ビジョン講座	1	9	薬剤師研修講座
認定・専門薬剤師養成講座	1	1	
医療安全対策講座	2	未定	
臨床薬学講座	1	1	
地域がん医療薬剤師養成基礎講座	1	未定	がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン連携講座
	2	未定	
漢方・薬用植物研究講座	1	1	生涯学習事業 連携講座
	2	6	
漢方・薬用植物研究講座 in 道民の森	3	1	
生涯学習事業（旧医療薬学セミナー）	1	未定	生涯学習事業 連携講座／薬学部同窓会共催
その他共催事業	未定	未定	

※2020 年 5 月 1 日現在

(10) 認定看護師研修センター

認定看護師研修センターは、公益社団法人日本看護協会の認定する認定看護師教育機関として、2005 年 6 月に開設した。「皮膚・排泄ケア分野」「緩和ケア分野」「感染管理分野」の 3 分野でスタートし、2009 年に「がん化学療法看護分野」、2014 年には「認知症看護分野」を加え、10 年目で 5 分野を有する組織となった（2020 年度現在、「皮膚・排泄ケア分野」「緩和ケア分野」「がん化学療法看護分野」は休講中）。

認定看護師は、特定の看護分野において、「個人、家族および集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する（実践）」「看護実践を通して看護者に対し指導を行う（指導）」「看護者に対しコンサルテーションを行う（相談）」という 3 つの役割を果たす者として位置付けられている。

現在、開講している北海道内の認定看護師教育機関は本センターのみであり、各分野において高度な実践能力を有した認定看護師を各地に輩出している。

北海道医療大学認定看護師研修センター 教育理念

日本の医療の高度化に伴い専門分化が進み、より高度の専門知識が要求されている。また、保健や福祉領域においても、制度やサービス内容など、日々刻々と変化している。そのような現状の中で、看護の役割の重要性は再確認され、その役割が拡大してきている。臨床の現場では、より質の高い看護ケアの提供が要求され、そのために各専門領域に特化した知識と技術を身につけることが求められている。

このような状況を踏まえ、北海道医療大学認定看護師研修センターは、母体である北海道医療大学看護福祉学部及び大学院看護福祉学研究科が培ってきた教育体制を活用しながら、専門知識、技術の教授を行い、そしてそれだけに留まらず本学の理念である個体差を重視したアプローチ、いわば研修生一人ひとりの人間としての幅を広げていくことを支援し、ヒューマンケアを提供できる人材を養成する。

北海道医療大学認定看護師研修センター 教育目的

各分野・各専門領域の技術・知識のみならず、人間を取り巻く法律や社会制度ならびに人文科学的知識、さらに各領域を発展させていく指導力を併せ持つ人材を養成する。

① 「認定看護師」資格取得へのプロセス

看護師 → 実務経験が通算5年以上（内3年以上は認定看護分野の経験必要） → 日本看護協会が認定する認定看護師教育機関での教育課程を修了する。 → 【認定審査】※書類審査 ※筆記試験 → 【認定看護師】

② 研修期間

4月1日～3月 31 日までの連続した6か月以上（本学）

③ 看護分野/入学定員/入学者数（直近 10 か年）

（名）

分野名	入学定員	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
皮膚･排泄ケア	20	13	23	15	16	10	19	―	―	―	―
緩和ケア	20	18	15	-	-	―	―	―	―	―	―
感染管理	20	-	-	20	20	15	20	16	20	19	13
がん化学療法看護	20	10	13	8	-	―	―	―	―	―	―
認知症看護	20	-	-	-	17	18	15	20	20	18	19
計	80	41	51	43	53	43	54	36	40	37	32

④ 認定審査結果／合格者推移（直近 10 か年）

（名）

分野名	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
皮膚･排泄ケア	16	16	14	22	12	14	10	18	―	―
緩和ケア	18	15	19	15	3	―	―	―	―	―
感染管理	19	2	―	-	17	18	14	19	14	15
がん化学療法看護	18	13	7	15	8	―	―	―	―	―
認知症看護	―	―	―	―	―	17	18	15	18	22
計	71	46	40	52	40	49	42	52	32	37

※認定審査：日本看護協会が実施（毎年5月） ※合格者＝過年度修了生の合格者も含む

⑤ 認定看護師教育基準カリキュラムによる目的と基準時間数（2020 年度）

〇感染管理分野（615 時間） ※本センターでは 620 時間

・医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。

・医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。

・医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。

〇認知症看護分野（615 時間）

・認知症者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得し、水準の高い看護実践ができる能力を育成する。

・培った認知症看護の専門的な知識と技術を活かし、看護職に対して指導・相談できる能力を育成する。

・あらゆる場において、認知症者の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアを看護職や他職種と協働して提供できる能力を育成する。

(11)こころの相談センター

2003 年 5 月に設置した心理臨床・発達支援センター（札幌あいの里キャンパス）は、乳・幼児期から老年期までの幅広いニーズに対応できるよう、臨床心理士や公認心理師資格、精神科医等の専門資格を有する専任教職員が相談活動に携わっている。また、OSCE（客観的臨床技能試験）に合格した心理科学研究科の大学院生も専任教員の指導の下、相談活動に従事している。

札幌市北部において類する相談室が少ないことから、広く地域に開かれた相談機関として、札幌市内に限らず、北海道内全域から相談者を受け入れている。また、隣接の大学病院心療内科、言語聴覚治療室、及び近隣医療機関より紹介されてくるケースもある。

センターにおける相談活動のみならず、市内教育機関へ定期的に大学院生を派遣して行う学習支援、市外乳幼児健診の補助、インターネット TV 会議システムを活用した道内遠隔地の高等学校での相談活動の実施等、多様な援助活動を展開している。また、本学大学院の心理実践実習、本学の他組織との共催による臨床心理学セミナー、臨床心理リフレッシュスクール、センター主催の公開講座等、卒後教育のみならず、広く臨床心理業務に携わる人たちへの教育研修事業を行っている。また、被相談者の更なる利用促進を目的として、2018 年度に施設一部改築、2019 年より相談料の改定、2020 年度からは名称を「こころの相談センター」へと変更した。

① 管理・運営体制

「こころの相談センター規程」に基づいて運営委員会を設置し、センターの円滑な管理運営を図っている。

② 所在地

北海道医療大学 札幌あいの里キャンパス

医療技術学部棟1階（北海道札幌市北区あいの里2条5丁目）

【相談料金】
初回面接：3,000 円
（2 回目以降：2,000 円）
コンサルテーション：4,000

③ 施設等

面接室 5 室、プレイルーム 1 室、カウンセリングルーム 1 室、面接記録保管室1室、待合室・受付、車椅子・幼児対応手洗い・シャワールーム

④ 相談員

（臨床心理士・公認心理師資格・精神科医師資格を有する教員）

中野 倫仁　冨家 直明　野田 昌道　森 伸幸
河合 祐子　百々 尚美　金澤潤一郎　本谷 亮
今井 常晶　西郷 達雄　関口 真有　河村 麻果

このほか、OSCE に合格した大学院生が相談業務に従事している。

⑤ 利用状況

項　目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
インテーク面接				
カウンセリング（初回面接）	31	36	13	43
療育	26	22	9	—
カウンセリング（2回目以降）	296	322	228	380
療育相談	331	226	73	—
コンサルテーション	6	7	0	0
訪問相談	0	0	0	—
合計	690	613	323	423

*「訪問相談」＝北海道内自治体/医療機関における相談実績を含む。

*2019 年度より項目を初回面接とカウンセリング（2 回目以降）、コンサルテーションの 3 項目のみに変更した。

⑥ 相談内容

・学校・園での問題：不登校(園)、登校(園)しぶり、友人関係の問題、いじめ、非行、その他
・発達上の問題：自閉スペクトラム症、ADHD、SLD・学習上の困難、発達の遅れ、言葉の遅れ、社会性の問題、習癖(夜尿，爪噛み，抜毛等)、母親の育児不安、その他
・不安の問題：パニック症、強迫性症、全般性不安症、適応障害、その他
・気分上の問題：うつ病関連障害、抑うつ傾向、双極性障害、その他
・身体症状：心身症、心気症、その他
・家族の問題：引きこもり、人間関係の問題、介護に関する問題、認知症、その他
・職場の問題：人間関係、職場不適応、ストレス、その他
・性格上の悩み
・専門家へのコンサルテーション

⑦ 公開講座

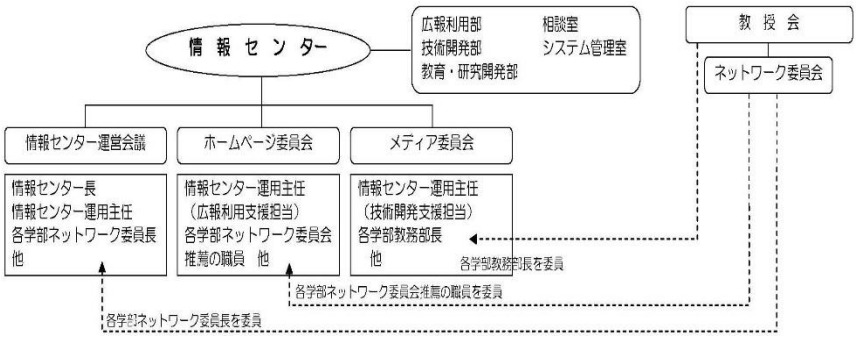
北海道医療大学　心理科学部　心理臨床・発達支援センター主催　公開講座	参加者数
うつ・不安の理解と心理的支援 ―こころとからだを楽にするヒントー	27
大人の発達障がいの理解と支援のコツ	38

(12) 情報センター

情報センターは、本学の情報ネットワーク(東日本学園ネットワーク:HNNET)の管理・運用を目的に 1998 年 6 月に設置した。以来、教育・研究におけるネットワークの円滑な利用を図るため、学内 LAN の整備及び利用を支援している。
整備面では、2001 年:幹線及び支線の高速化(幹線 1Gbps、支線 100Mbps)、2002 年:ネットワーク監視システム構築、2003 年:VPN 認証システム導入等が、利用面では、2002 年:CALL 教室の授業時間外開放、情報コンセントの年次毎の増設、2004 年:DHCP サーバ導入等が挙げられる。さらに、急増する迷惑メールの対策として 2007 年にスパムメール対策サーバを導入している。2003 年には、教育・研究上のネットワーク利用事例紹介や研究紹介、利用状況等を取りまとめた「情報センター年報」の発行を始めた。2006 年6月には学内 LAN を巡る状況の変化において諸課題に対応すべく情報センターの機構改革を行っている。さらに、薬学部・歯学部の CBT への支援(中央講義棟 Altiris サーバ)、歯学部総合学力試験への支援、入学前教育システム・演習試験解説システム、携帯電話を用いた教育支援システムの構築等、教育面における支援も積極的に行っている。2008 年度からは HNNET サービス及び本学の情報処理教育の更なる拡充を推進すべく、Web 系サーバ類及び情報処理教室機器類の更改を年度毎に実施している。

① 管理・運営体制

情報センターは、情報センター規程に基づき、センター業務を統括する情報センター長、広報利用支援担当、技術開発支援担当、及び教育・研究開発支援担当の運用主任5名、HNNET 利用に係る相談に対応する相談員、センターの教育研究を担当する職員若干名により構成している。



○情報センター運営会議
情報センターの需要事項、規程の制定・改廃、予算、HNNETの設置、管理運用等協議

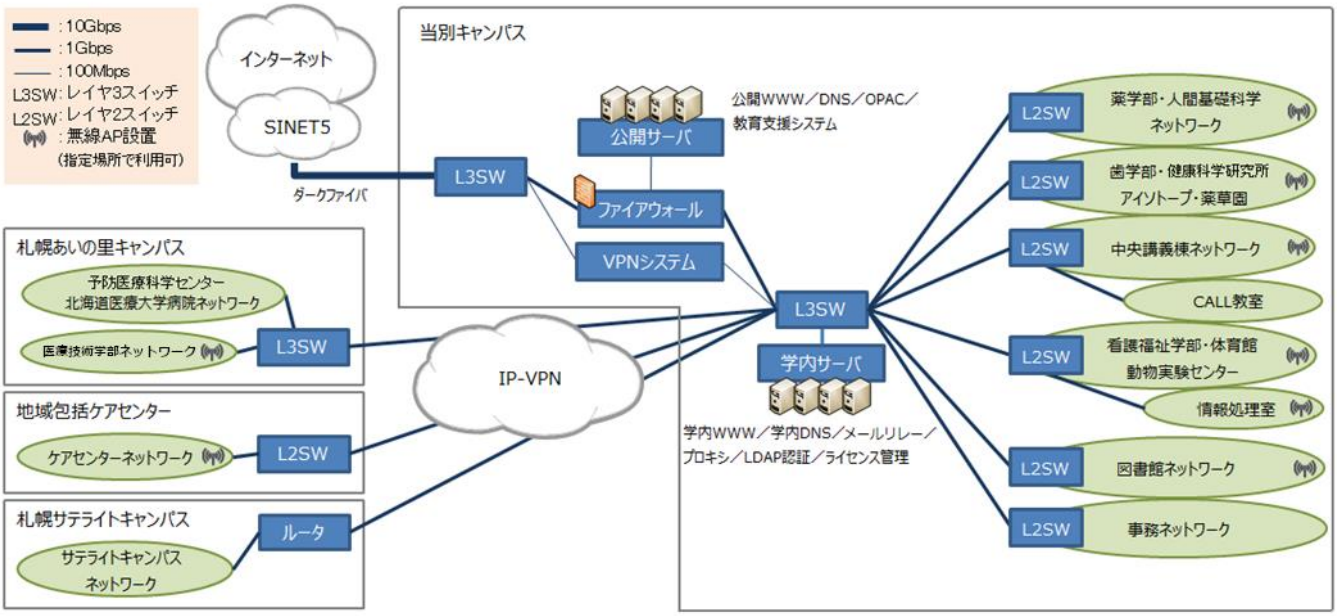
○メディア委員会
情報処理システム、HNNET学生利用、教育上の利用環境、情報処理教室管理運用等

○ホームページ委員会
ホームページの管理・運用及びトップページデザイン作成等

○ネットワーク委員会
各学部等ネットワーク利用の検討

・情報センター長／運用主任(技術開発支援担当) :	二瓶裕之 教授
・運用主任(広報担当) :	青木 隆 教授
・運用主任(広報担当) :	濵田淳一 教授
・運用主任(技術開発支援担当) :	入江一元 教授
・運用主任(教育・研究開発担当)／相談員(心理科学部):	西牧可織 助教 ※職員兼任
・相談員 :	中山 章 講師(薬学部)
	仲西康裕 講師(歯学部)
	花渕馨也 教授(看護福祉学部)
	西澤典子 教授 (リハビリテーション科学部)
	児玉壮志 講師 (リハビリテーション科学部)
	中村宅雄 助教 (リハビリテーション科学部)
	髙橋祐司 講師 (医療技術学部)
	岩尾一生 講師 (大学病院)
・職員 :	畠山彰文 講師

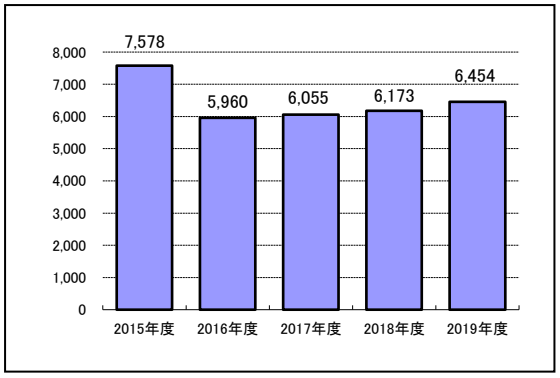
② 学内 LAN 構成図



③　登録アカウント数

（人）

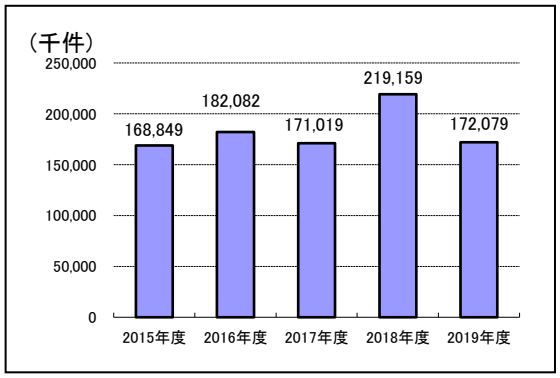
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
7,578	5,960	6,055	6,173	6,454



④　外部公開 WEB 総アクセス件数

（件）

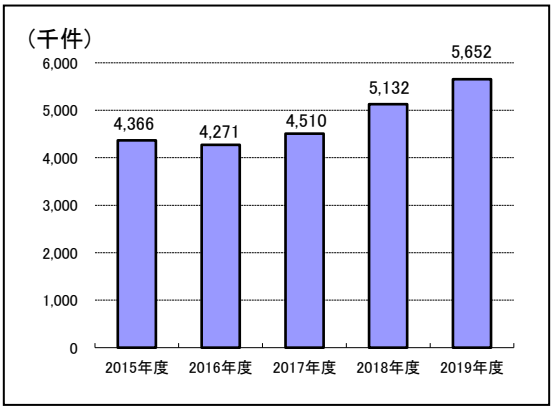
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
168,848,818	182,081,810	171,018,524	219,159,092	172,079,175



⑤　メール送受信件数

（件）

2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
4,365,950	4,271,026	4,509,732	5,131,619	5,652,248

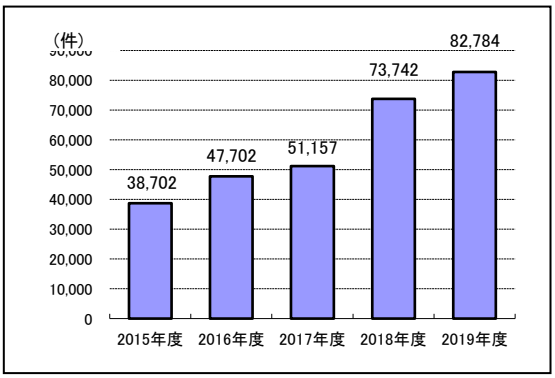


※　2017 年度からは Gmail 移行に伴い参考値

⑥　VPN 接続件数

（件）

2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
38,702	47,722	51,157	73,742	82,784



北海道医療大学情報セキュリティポリシー

本学では、2002 年 12 月 学長を委員長とする情報セキュリティ委員会を設置、以来、情報セキュリティポリシーの策定へ向け検討を重ねてきた。2005 年1月 同委員会において、「北海道医療大学セキュリティポリシー」が了承された。情報セキュリティポリシーは次の基準、マニュアル等からなる。

・北海道医療大学セキュリティポリシー　・情報セキュリティ対策基準
・ネットワーク利用に関するガイドライン　・緊急時対応マニュアル　・システム障害時対応マニュアル

(13)国際交流推進センター

国際交流推進センター＜International Education and Exchange Center＞は本学の教育理念と教育目標を基盤に置き、海外の教育研究機関等との学術交流や学生交流などの事業を展開することで本学の国際化を推進することを目的として設置されている。前身である国際交流推進室から引き続き、本学のグローバル化に向けた窓口としての機能を果たしている。

① 管理・運営体制

学長、学長が委嘱するセンター長、各学部長、事務局長ならびに事務担当部長により運営委員会が組織され、各事業の具体策を協議するとともにセンターの管理と運営にあたっている。

② 海外提携校

2019 年度に新たに 2 大学と提携し、大学間提携は 4 大学 1 機関、学部間提携は 20 大学に至っている。詳細はⅨ-2 にデータを示している。

③ 学生の派遣と受け入れ

海外の提携校との間で学生の短期研修および語学研修を行っている。派遣と受け入れの実績はⅨ-2 にデータを示している。

④ ロシア(沿海州)との交流

北海道の後押しも受け、ロシアとの交流が活発になってきている。2019 年度は、7 月に極東国立総合医科大学および医療従事者職能研修機関から研究者を招聘し通算 3 回目となるシンポジウムを本学で開催した。また、歯学部およびリハビリテーション科学部教員をハバロフスクでの学術大会に派遣する一方、極東国立総合医科大学歯学部学生の短期研修受け入れ等を行った。

(14)地域連携推進センター

地域連携推進センター＜Center for Regional Partnership Promotion＞は本学の教育理念と教育目標を基盤に置き、本学の知的財産を広く社会に還元し、社会に開かれた大学として地域社会に貢献するとともに、本学の教育研究活動の活性化を図ることを目的として設置されている。前身は地域連携推進室であったが、地域連携の取り組みに対する全学的な意識をより高めるため 2017 年 4 月、名称を地域連携推進センターに改称した。

主な事業は生涯学習を企画し実施すること、地域との連携を推進すること、産学連携を推進することなどであり、本学が教育研究活動を通じて積み上げた成果を、広く学外に提供するための橋渡し役となっている。

① 管理・運営体制

学長が委嘱するセンター長、各学部および全学教育推進センターから推薦された教員、ならびに事務担当部長・課長により運営委員会が組織され、各事業の具体策を協議するとともにセンターの管理と運営にあたっている。

② 生涯学習事業

2019 年度は主催、共催および後援の各事業を合わせて 19 講座 69 回実施し、延べ約 2,550 名が受講した。前年との比較では実施回が4回減、受講者数は約8%減となっている。詳細はⅨ-1 にデータを示している。

③ 地域との連携

【当別町】 本学が所在する石狩郡当別町とは、定期的に連携推進協議会を開催し連携を深めている。本学からは副学長、センター長、事務部長および事務係が出席し、2019 年度は 8 回開催された。主な協議の内容は各種業務協力(ふるさと納税、学生の住民票異動、当別町タウンミーティング・グループインタビュー、ドローン物流実証事業ほか)、町の福祉や介護に係る計画策定業務の本学への委託、町内での連携公開講座の実施、学生の町内居住 1,000 人プロジェクトの検討、町内居住学生への生活支援、大学病院での人間ドック受け入れなどである。

【滝川市】 滝川市とは連携推進協議会ならびに部会(保健福祉・リハビリ分野、医療・看護・人材教育分野)を開催している。協議会には副学長、センター長、各学部教員、事務部長および事務係が出席し、部会には分野別に学部教員が出席している。主な協議の内容は各種業務協力(そらぷちキッズキャンプ、市立病院および社会福祉事業団職員の研修ほか)、高等看護学院への講師派遣、市立高校における進学説明会などである。

（15）アドミッションセンター

アドミッションセンターは、本学における入学者選抜方法の改善及び入学者選抜の円滑な実施に資することを目的として、2017 年 4 月に設置された。
主な業務は、入学者選抜方法の調査・研究、入学者選抜結果の分析及び評価、入学者の学業成績等の追跡調査などであり、本学の教育目標に適合する入学者選抜の実施、アドミッションポリシーに沿った多様な入学者確保における重要な役割を担っている。

① 管理・運営体制

センターは、北海道医療大学アドミッションセンター規程に基づき、センター長（副学長兼任）、副センター長、各学部より学長が選任する 5 名の兼担職員から組織されている。センター職員及び広報部長を構成員としてアドミッションセンター運営委員会が設置されており、センター業務に関する事項について協議するとともに、管理と運営にあたっている。

② アドミッションセンター運営委員会

（開催実績）

・2017 年度

第 1 回委員会　日時：2017 年 5 月 16 日（火） 11:00-
場所：第 3 会議室

第 2 回委員会　日時：2017 年 12 月 25 日（火） 11:00-
場所：第 3 会議室

・2018 年度

第 1 回委員会　日時：2019 年 1 月 11 日（金） 14:30-
場所：第 3 会議室

・2019 年度

第 1 回委員会　日時：2019 年 5 月 7 日（火） 16:00-
場所：第 3 会議室

③ 入試セミナー

前年度入試の分析結果、大学入試改革、高大接続改革などのトピックスについて、外部の講師を招へいし、講演形式のセミナーを年 1 回開催している。2018 年度から、全学 SD セミナーとしても開催している。

（開催実績）

・2017 年度大学入試・広報セミナー
日時：2017 年 6 月 30 日（金）14:00－16:00
場所：図書館会議室
講師：株式会社進研アド
次第：高大接続改革に向けた取り組みについて
1）2017 年度入試の状況
2）本学入試の状況
3）高大接続改革の現状と課題について

・2018 年度大学入試・広報セミナー
日時：2018 年 6 月 28 日（木）10:00－11:30
場所：図書館会議室
講師：株式会社進研アド
次第：
1）結果分析および 2017 年度接触状況分析
2）進研模試データによる他大学を含めた 2018 年度入試総括と 2019 年度以後の高校生や環境の変化

・2019 年度大学入試・広報セミナー
日時：2019 年 6 月 19 日（水）13:00-17:00
場所：図書館会議室
講師：株式会社進研アド
次第：
1）2019 年度入試の状況
2）本学入試の状況

（16）IR（Institutional Research）推進センター

IR（Institutional Research）推進センターは、本学における教育、研究その他の諸活動に関する情報の効果的かつ効率的な収集、分析等を行うことにより、本学の戦略的な大学運営に資することを目的として 2018 年4月に設置された。2019 年度は IR で取り扱うデータ及び取扱いに関する方針や学内向け HP における情報公開（統合データベース内容、教学情報利用申請内容（教育改善内容・研究目的）等の整備を図った。

1．管理・運営体制

2018 年４月に設置した IR（Institutional Research）推進センターは、大学内の様々な教学情報を管理、収集、分析し、その結果を教育の質向上・研究・学生支援のため、数値化、可視化することを目的としている。

「IR（Institutional Research）推進センター」では、センター長、副センター長、兼担職員、学務部長、IR 課長によって構成される運営委員会を設置し、管理運営を行っている。

（1）組織　①委 員 長：センター長

②副委員長：副センター長

③委　員：各学部より選出された委員１名

④事務職員：2名

（2）業務　①本学が保有する情報の収集・分析

②大学運営の推進に関する情報の提供

③委　員：IR の普及・促進

④事務職員：その他

2．活動状況

（1）入試種別・受験科目と学生異動（留年・退学）等に関る分析

①入学年度・入試種別・受験科目による国家資格取得率

②入学年度・入試種別・受験科目による学生異動（退学・留年等）

③入学年度・入試種別による退学率

④入学年度・入試種別による留年率

（2）入学者追跡調査（ストレート卒業率）に関する分析

（3）学生生活アンケート集計結果に関る分析

（4）2018年度 GPA に関る分析

（5）退学する学生と留年経験に関る分析

（6）運営委員会の開催状況（2019 年度）

会議名	開催回数	主な審議等内容	件　数			構成員数
			協議	報告	その他	
IR 推進運営委員会	4	IR 推進センターデータの取扱いに関する事項、HP における情報公開に関する事項、IR と各学部・学校の連携分析依頼に関する事項、今後の活動に関する事項、IR システムデータ（統合 DB）へのデータ追加に関する事項	6	6	8	7

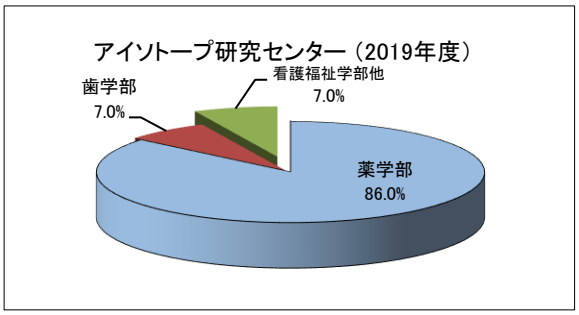
(17)施設等利用状況

本学全教職員・学生が共用する研究関連施設には、2009年9月に伝統薬物研究センターが整備され、アイソトープ研究センター、動物実験センター、薬用植物園、ハイテク・リサーチ・ラボ、ハイテク・リサーチ・センターと合わせて6施設が設置され、日々活発な研究活動が行われている。

①アイソトープ研究センター

(回)

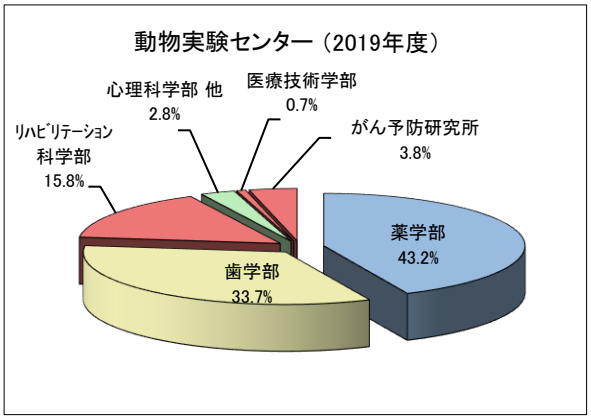
区分	2018年度	2019年度
薬学部	534	172
歯学部	9	14
看護福祉学部 他	1	14
その他(学生実習)	322	0
計	866	200



②動物実験センター

(回)

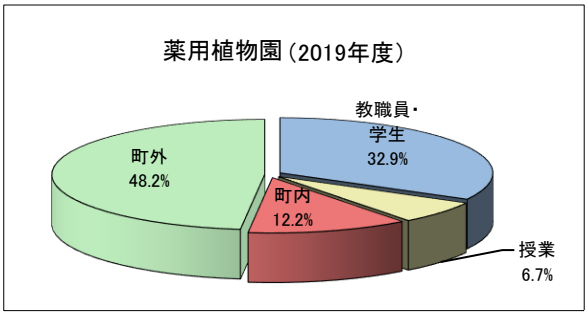
区分	2018年度	2019年度
薬学部	2,076	2,563
歯学部	1,391	2,000
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	1,067	935
心理科学部 他	0	163
医療技術学部	201	44
がん予防研究所	225	226
計	4,960	5,931



③薬用植物園

(回)

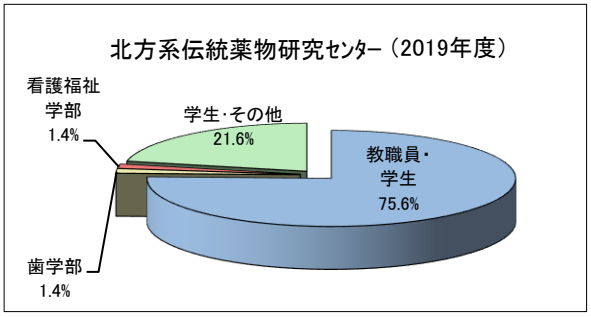
区分	2018年度	2019年度
教職員・学生	842	914
授業	190	185
町内	170	339
町外	1,937	1,337
計	3,139	2,775



④北方系伝統薬物研究センター

(回)

区分	2018年度	2019年度
教職員・学生	1,070	1,045
歯学部	20	20
看護福祉学部	20	20
学生・その他	305	299
計	1,415	1,384

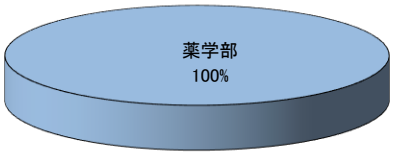


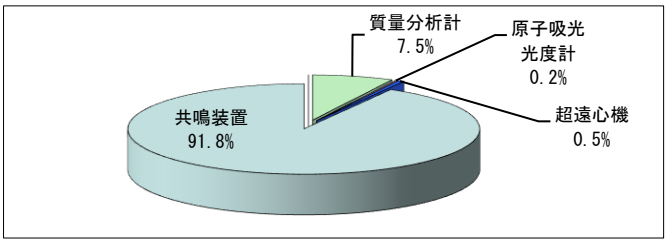
⑤ハイテク・リサーチ・ラボ[大型機器室]

(回)

年度・学部等 機器名	2018年度				2019年度			
	薬学部	歯学部	看護福祉学部	計	薬学部	歯学部	看護福祉学部	計
ｶﾞｽｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ質量分析計	245	0	0	245	305	0	0	305
偏光ｾﾞｰﾏﾝ原子吸光光度計	7	0	0	7	10	0	0	10
分離用超遠心機	10	0	0	10	21	0	0	21
核磁気共鳴装置	3,464	0	0	3,464	3,752	0	0	3,752
単結晶構造分析装置	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3,726	0	0	3,726	4,088	0	0	4,088

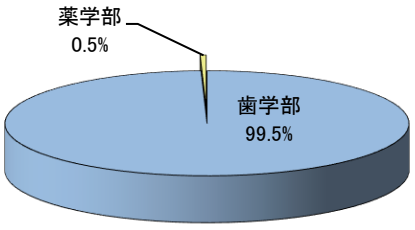
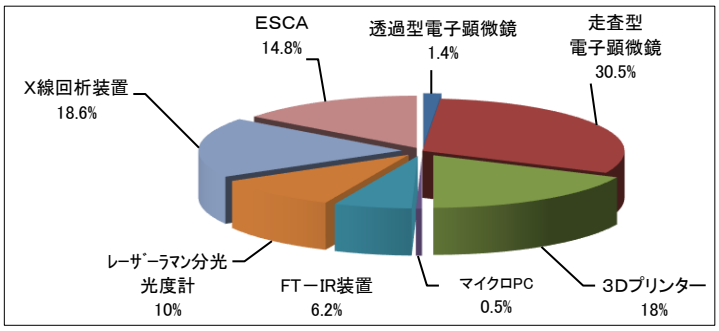
ハイテク・リサーチ・ラボ [大型機器室](2019年度)





⑥ハイテク・リサーチ・センター

(回)

年度・学部等 機器名	2018年度					2019年度				
	薬学部	歯学部	心理科学部	その他	計	薬学部	歯学部	心理科学部	その他	計
透過型電子顕微鏡	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
走査型電子顕微鏡	3	94	0	0	97	1	63	0	0	64
3Dプリンター	0	35	0	0	35	0	38	0	0	38
マイクロCT	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
FT－IR装置	0	17	0	0	17	0	13	0	0	13
ﾚｰｻﾞｰﾗﾏﾝ分光光度計	0	30	0	0	30	0	21	0	0	21
X線回析装置	0	6	0	0	6	0	39	0	0	39
ESCA	0	52	0	0	52	0	31	0	0	31
計	3	234	0	0	237	1	209	0	0	210

ハイテク・リサーチ・センター (2019年度)